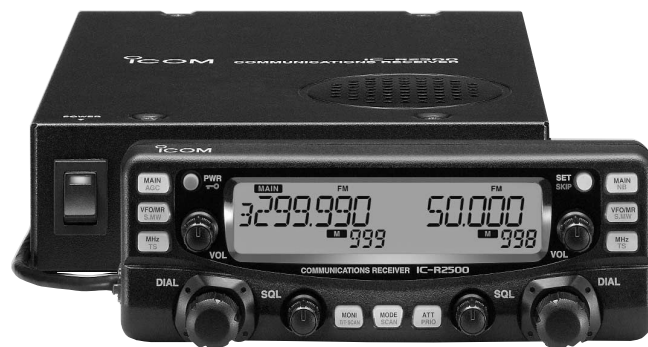


ICOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER
IC-R2500



Icom Inc.

はじめに

このたびは、IC-R2500をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機はコントローラー操作型のコミュニケーションレシーバーです。

受信回路を2系統搭載していますので、2波を同時に受信できます。

別売品のデジタルユニット(UT-118)を取り付けると、DV(デジタル音声)モード、D-STARレピータの交信が受信できます。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。

本書をお読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

ユーザー登録について

付属の愛用者カードに必要な事項をご記入いただき、必ず投函してください。

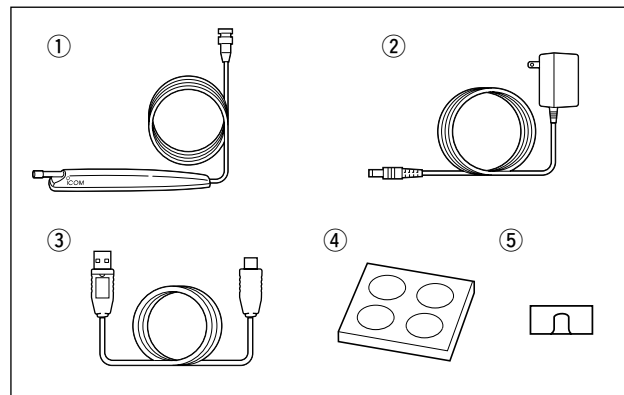
ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要となります。

個人情報の利用について

弊社は、個人情報を利用する場合は、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内にて利用し、範囲を超えての利用はいたしません。

弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ(<http://www.icom.co.jp>)をご覧ください。

付属品



- ① アンテナ …………… 1
 - ② ACアダプター …………… 1
 - ③ USBケーブル(約1m) …… 1
 - ④ クッションシート
(クッション: 4個付き) …… 1
 - ⑤ ワイヤーステッカー …… 1
- CD
 - 取扱説明書
 - 保証書
 - 愛用者カード

※クッションシートとワイヤーステッカーの使い方については、12章(※ P78)をご覧ください。

はじめに	i
もくじ	ii
安全上のご注意(必ずお読みください)	vi
■ 受信機本体について	vi
■ ACアダプターについて	vii
■ その他取り扱いのご注意	viii
■ モービル運用時のご注意	viii
■ 登録商標について	ix
1. 接続について	1
■ 本機とコントローラーとの接続について	1
■ TNCとの接続のしかた	2
■ DV(デジタル音声)モードのデータ通信受信について	2
2. 各部の名称と機能	3
■ フロントパネルについて	3
■ 表示部について	6
■ 本体前面部について	8
■ 本体後面部について	8
3. 基本操作のしかた	9
■ 電源の“ON/OFF”のしかた	9
■ 音量を調整する	9
■ スケルチレベルを調整する	9
■ モニターのしかた	9
■ 受信モード(電波型式)を設定する	10
◇受信モード(電波型式)を設定するには	10
◇オートマッチックモード機能を使用するには	10
■ 受信周波数を設定するには	11
■ 周波数ステップ(TS)を変更するには	11
◇設定できる周波数ステップ	11
■ IFフィルターの切り替えかた	12
■ アッテネーター(ATT)機能について	12
■ NB(ノイズブランカー)機能の使いかた	13

■ AFC(自動周波数制御)機能の使いかた	13
■ AGC(自動利得制御)について	14
■ 左バンド/右バンドの切り替えについて	14
■ シングルワッチモードについて	15
■ ダイバーシティ受信モードについて	16
4. メモリーの使いかた	17
■ メモリーモードについて	17
■ M-CHの初期設定値について	18
■ M-CHの呼び出しかた	18
◇すべてのM-CHを呼び出す	19
■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた	19
◇M-CHの書き込みかた	19
◇書き込み後のオートイングリメントについて	21
◇M-CHの内容をVFOに転送して使うには	21
◇M-CHの内容を他のチャンネルへ複写するには	21
■ M-CHをバンクで編集する	22
◇M-CHとバンクの使用例	22
◇バンクのM-CH表記について	22
◇編集のしかた	22
◇メモリーバンクに編集した内容を確認するには	23
■ メモリーネームの使いかた	24
◇メモリーネームを入力する	24
◇メモリーネームを表示するには	25
■ メモリークリア(消去)のしかた	26
◇メモリーの内容を消去する	26
5. スキャンのしかた	27
■ スキャンについて	27
◇スケルチの調整	27
◇スキャン中の[DIAL]ツマミについて	27
◇スキャン中のステップについて	27
◇スキップ機能について	27

もくじ

◇受信モード(電波形式)について	27	◇レピータの送信周波数の設定	38
◇信号を受信すると	28	◇デュプレクスモードとオフセット周波数の設定	38
◇再スタートの条件設定	28	◇デュプレクス通信の両周波数の受信	38
◇スキップチャンネルの指定と解除のしかた	28	■ デュプレクスモードを解除するとき	39
■ VFOスキャンのしかた	29	■ VSC(ボイススケルチコントロール)機能について	39
◇VFOスキャン/プログラムスキャンの操作	29	■ IFシフト機能について	39
■ メモリースキャンのしかた	30	■ 空線キャンセラー機能について	40
◇メモリースキャンの操作	30	◇空線キャンセラー周波数の設定	40
■ メモリーバンクスキャンのしかた	30	■ MSK機能について	41
◇メモリーバンクスキャンの操作	30	■ スケルチディレイを設定する	41
6. プライオリティスキャンの操作	31	■ ビープ音について	41
■ プライオリティスキャンについて	31	■ キーロック機能の使いかた	42
◇VFO周波数を受信中にM-CHを受信する	31	■ オートパワーオフ機能の使いかた	42
◇VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する	32	■ クローニングについて	42
◇VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CH (周波数表示のみ)を受信する	32	■ CP-12L(別売品)のヒューズ交換のしかた	42
7. トーン機能/DTCS機能について	33	■ 内部スイッチの切り替えについて	43
■ トーンスケルチ機能の使いかた	33	■ リセット操作について	44
◇トーンスケルチ機能とは	33	◇オールリセットの操作	44
◇ポケットビープ機能とは	33	◇パーシャルリセットの操作	44
◇CTCSSトーン周波数を設定する	33	■ クローニングソフトウェアのインストールについて	45
■ DTCS機能の使いかた	34	■ IC-R2500クローニングソフトウェアの起動と 各部名称について	45
◇DTCS機能とは	34	■ クローニング時の表示について	46
◇DTCSコードを設定する	34	■ M-CHの編集について	47
■ DTCS極性反転機能について	35	■ バンクチャンネルの編集について	47
■ トーン/コードスキャンのしかた	36	■ Skip Areaの編集について	48
◇スタート操作	36	■ Auto Modeの編集について	48
8. その他の機能	37	■ Common Settingの設定について	49
■ デュプレクス通信を受信する	37	■ Common Settingの設定項目	49
◇デュプレクスとは	37	■ コメントの入力/表示について	50
◇オフセット周波数とは	37	■ データのコンパートについて	50

9. SETモードの設定	53	◇スケルチディレイの設定	62
■ SETモードの設定のしかた	53	◇ANF(Automatic Notch Filter)機能の設定	62
◇SETモードの操作	53	◇NR(Noise Reduction)機能の設定	62
◇メモリーバンクのリンク設定モードについて	53	◇DV(デジタル音声)SETモードの設定	63
◇DV(デジタル音声)SETモードについて	53	◇オプションユニットの電源供給の設定	63
◇SETモードの設定項目一覧	54	◇コールサインの設定	63
◇DV(デジタル音声)SETモードの設定項目一覧	55	◇デジタルコードの設定	63
■ SETモードの項目について	56	◇本機とパソコン間の通信速度の設定	64
◇ビープ音(操作音)の設定	56	◇スタンバイビープの設定	64
◇ビープ音(操作音)の音量設定	56	◇デジタルモニターの設定	64
◇オートパワーオフ機能の設定	56	◇受信コールサイン自動表示の設定	64
◇ディママーの設定	56	◇受信メッセージ自動表示の設定	65
◇バックカラーの設定	57	◇受信コールサイン履歴の表示	65
◇コントラストの設定	57	◇受信レピータ1コールサイン履歴の表示	65
◇シンプレックス/デュプレックスの設定	57	◇受信レピータ2コールサイン履歴の表示	65
◇オフセット周波数の設定	57	◇受信メッセージ履歴の表示	66
◇トーンスケルチ用トーン周波数の設定	58	◇受信メッセージのコールサイン履歴の表示	66
◇DTCSコードの設定	58	◇送信側のGPS位置情報の表示	66
◇DTCS極性反転機能の設定	58	◇受信GPSメッセージ履歴の表示	66
◇TRAIN/MSK機能の設定	58	10. UT-106(別売品DSPユニット)について	67
◇TRAIN周波数の設定	59	■ UT-106の取り付け	67
◇VSC(ボイススケルチコントロール)機能の設定	59	■ ANF(Automatic Notch Filter)機能について	68
◇スキャンストップタイマーの設定	59	■ NR(Noise Reduction)機能について	68
◇メモリーネーム表示の設定	59	11. DV(デジタル音声)モードについて	69
◇メモリーバンクのリンク設定	60	■ デジタル音声ユニットの取り付け	69
◇プログラムスキップの設定	60	◇デジタル音声ユニットを取り付ける	69
◇スキップスキップエリアの有効/無効の設定	61	■ DV(デジタル音声)モードの設定	69
◇AFC(自動周波数制御)機能の設定	61	■ 自局のコールサインを設定する	70
◇IFフィルター通過帯域幅の設定	61	■ 受信信号のコールサインを自動表示する	71
◇IFシフト機能の設定	61	■ 受信メッセージを自動表示する	71
◇SUBバンドの設定	62	■ 受信コールサイン履歴を表示する	72

もくじ

■ 受信レピータ1のコールサイン履歴を表示する	72
■ 受信レピータ2のコールサイン履歴を表示する	73
■ 受信メッセージの履歴を表示する	73
■ 受信メッセージのコールサイン履歴を表示する	74
■ 送信側のGPS位置情報を表示する	74
■ 受信GPSメッセージの履歴を表示する	75
■ デジタルコールサインスケルチの使いかた	76
◇ コールサインを設定する	76
◇ デジタルコールサインスケルチ機能を設定する	76
■ デジタルコードスケルチの使いかた	77
◇ デジタルコードを設定する	77
◇ デジタルコードスケルチ機能を設定する	77
12. ご参考に	78
■ 別売品UT-118/UT-108の取り付けかた	78
■ 付属品の取り付けかた	78
◇ クッションの取り付けかた	78
◇ ワイヤステッカーの取り付けかた	78
■ コントローラーの設置について	79
■ 車載時の設置について	80
■ 故障かな?と思ったら	81
■ アフターサービスについて	82
13. 定格と別売品について	83
■ 定格	83
◇ 一般仕様	83
◇ 受信部	83
■ 別売品一覧	84

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した記載事項は、使用者および周囲の人への危害や財産を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■受信機本体について



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなど異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、DC INコネクタに接続している電源コードを抜いてください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、サポートセンターまたは弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。
- 指定以外のACアダプターは使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ガス管や配電盤に接地しないでください。
感電や漏電、火災の原因になります。
- この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- 製品の中に線材のような金属物や水を入れないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- 雷が鳴り出したら、安全のため電源スイッチを切り、本機に接続している電源コード、アンテナを抜いてください。
アンテナには絶対にさわらないでください。
落雷によって、火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意

■ 受信機本体について(つづき)

危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など温度変化の激しい場所に放置しないでください。変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオのすぐ近くで使用しないでください。電波障害を受けたり、雑音が発生することがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。けが、故障の原因になることがあります。
- 製品の上に乗ったり、物を置いて保管しないでください。落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- 付属のアンテナの端を持って振り回したり、アンテナケーブルを持って振り回したりしないでください。本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- ぐらついた台や傾いたところ、振動の多い場所には設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

■ ACアダプターについて

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または負傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱や加工しないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードの上に重い物を載せたり、挟んだりしないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。火災、感電、故障の原因になります。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。火災、感電、故障の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。感電の原因になります。

■その他取り扱いのご注意

- 電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」と通信の秘密に関して定められています。
- IC-R2500は広帯域受信機ですから、受信機の内部発信(スプリアス)により、受信できなかつたり、雑音を発生する周波数もありますのが、故障ではありません。
- アンテナは、パソコンやテレビの近くに設置すると、ノイズなどの影響を受けますので、できるだけ離して設置してください。
- パーソナル無線やアマチュア無線を使って、本機の至近距離で送信すると、本機が誤動作する場合があります。アンテナを1m以上離し、必要時は本機のアッテネーターを動作させながら受信してください。
- 使用する地域によって、外部アンテナを使用したり、近くに強い電波があるときなど、妨害を受けることがあります。アンテナは受信周波数に合った専用のものが市販されていますが地域差や電波の状況により受信できない場合があります。
- FM/TV送信局が近くにある場合(特に東京/大阪など)、強い電波により妨害を受けやすくなりますので、このような地域においては、本機のアッテネーターを動作させながら受信してください。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。ケースが変色したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段は柔らかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■モバイル運用時のご注意

- 安全運転のため、走行中に本機を操作しないでください。操作するときは、必ず安全な場所に車を停車させてください。
- 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で車両を運転しないでください。一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが条例で規制されています。
- 本機、コントローラーを取り付ける場合、安全運転に支障がないように取り付けてください。また、エアバック装備車に本機を取り付ける場合、このシステムの動作に影響を及ぼす取り付けかたはしないでください。
- 本機をハイブリッドカー(ガソリンエンジンと電気モーターを交互に使用することで、エネルギー消費を大幅に減らした自動車)でご使用になる場合は、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

安全上のご注意

■登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc.、icom は、アイコム株式会社の登録商標です。

D-STARは、社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

アイコム株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製を禁止します。

アナログ放送からデジタル放送への移行について

- 本製品は地上デジタル放送(音声)に対応しておりません。
- 地上デジタル放送は関東、中京、関西の三大広域圏の一部で2003年12月から放送されています。
その他の地域でも、2006年末までに放送が開始されます。
- 地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年内に終了することが、国の方針で決定しています。

IC-PCR2500としてお使いになるとき

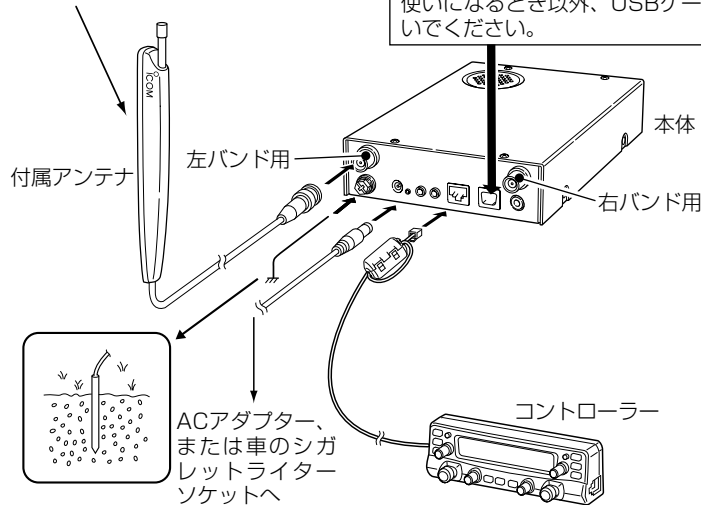
- ※IC-R2500とパソコンを付属のUSBケーブルで接続すると、IC-PCR2500のコントロールソフトウェアで操作できます。
詳しくはIC-PCR2500の取扱説明書をご覧ください。
コントロールソフトウェアで操作中、IC-R2500のコントローラーは使用できませんので、ご注意ください。

■ 本機とコントローラーとの接続について

本機の電源が切れていることを確認してから、下図のように接続してください。

- アンテナホルダーに両面テープがセットされています。薄紙をはがして、アンテナを固定することができます。

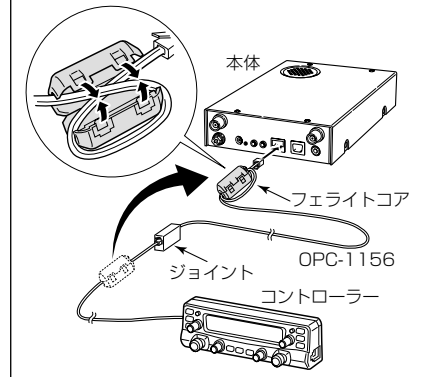
IC-R2500でここに導通性の物を挿入すると、ショートなどにより本機が壊れることがありますので、ご注意ください。また、クローニング、IC-PCR2500としてお使いになるとき以外、USBケーブルを接続しないでください。



付属のUSBケーブルをご使用にならなかったり、ケーブルを延長してご使用になる場合、動作については保証いたしません。あらかじめご了承ください。

△ご注意
 ガス管、配電管や水道管などは爆発や感電の原因となり大変危険ですから、絶対にアースとして使用しないでください。

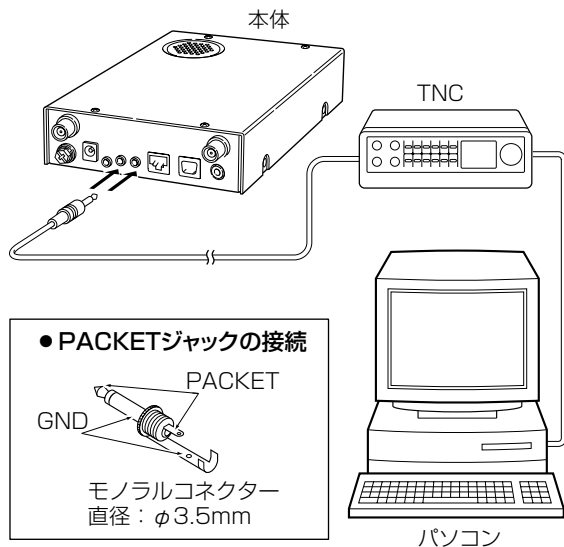
- OPC-1156(別売品)をご使用のとき
- ① コントローラーのコネクターをOPC-1156に付属のジョイントに接続します。
 - ② フェライトコアを取りはずし、OPC-1156の片側に取り付けます。取り付けるときは、フェライトコアにケーブルを1回巻き付け、できるだけコネクター部に近いところに取り付けてください(下図を参照ください)。
 - ③ OPC-1156のフェライトコアが付いている側を本体に、付いていない側をジョイントに接続します。



1 接続について

■ TNCとの接続のしかた

- ◎パケット(AFSK)通信の受信に必要なTNC(Terminal Node Controller)は、下図のように接続してください。
- ◎MAIN側でお使いになる場合は[PACKET1]に、SUB側でお使いになる場合は[PACKET2]に接続してください。
- ◎TNCの接続は、後面パネルのPACKET(9600bps)端子に接続します。(通信速度：9600bpsに対応します。)
- ◎なお、接続する際は使用するTNCに添付の取扱説明書をよくお読みください。

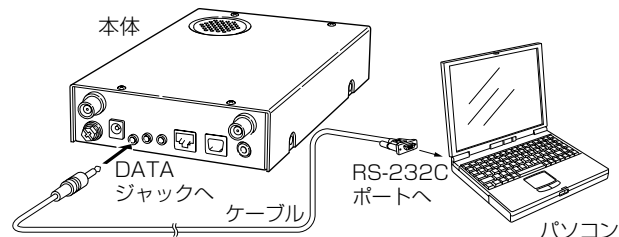


■ DV(デジタル音声)モードのデータ通信受信について

DVモード受信時、音声通信と簡易データ通信を同時に受信できます(別売品のデジタルユニットUT-118が必要です)。簡易データ通信を受信するには、パソコン、通信ソフト(市販品)、接続ケーブルが必要です。

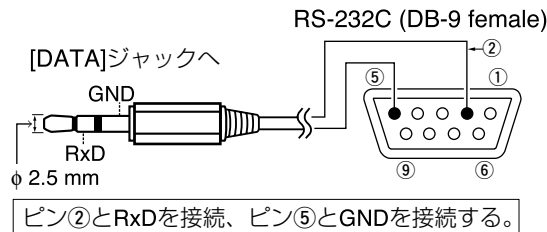
●パソコンとの接続

本機のDATAジャックとパソコンを接続します。ケーブルはお客様でご用意します。



●ケーブルについて

下図のようなケーブルをご用意ください。



■ フロントパネルについて

① PWR  (電源/ロック) キー

- ➡ 本機の電源キーです。(☞P9)
キーを押すごとに、電源を“ON/OFF”します。
※電源“ON”時は、ピーブ音(ピ・ポ)が鳴ります。
- ➡ 電源が“OFF”の状態でもキーを長く(約1秒)押し、電源を入れなおすごとに、キーロック機能を“ON/OFF”します。(☞P42)

② SET SKIP (セット/スキップ) キー

- ➡ キーを短く押すと、SETモードになります。(☞P53)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すごとに、スキップ機能(メモリーモード時:“SKIP”→“P(SKIP)”→OFF)が切り替わります。(☞P28)
※ SETモード表示中は、SETモードの項目を切り替えます。

③a MAIN AGC (左側にメイン切り替え/AGC(自動利得制御)) キー

- ➡ キーを短く押すごとに、左側をMAINバンドに設定します。(☞P14)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すごとに、MAINバンド側のAGC(自動利得制御)機能の“FAST/SLOW”を切り替えます。(☞P14)

③b MAIN NB (右側にメイン切り替え/NB(ノイズブランカー)) キー

- ➡ キーを短く押すごとに、右側をMAINバンドに設定します。(☞P14)
- ➡ キーを短く押すごとに、MAINバンド側のノイズブランカー機能を“ON/OFF”します。(☞P13)

2 各部の名称と機能

■ フロントパネルについて (つづき)



④ VFO/MR S.MW (VFOモード、メモリーモード/セレクトメモリーライト) キー

- ➡ キーを短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。(P18)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すと、セレクトメモリーライト状態(メモリーチャンネル表示が点滅)となり、すべてのメモリーチャンネルを呼び出せます。(P19)
※VFOモード時にキーを長く(約1秒)押すと、メモリーチャンネル(M-CH)への書き込みます(P19)。
※メモリーモード時にキーを長く(約1秒)押すと、メモリーチャンネル(M-CH)の内容をVFOに転送(P21)、他のM-CHへ複写(P21)ができます。

⑤ MHz TS (MHzステップモード/周波数ステップモード) キー

- ➡ キーを短く押すと、MHzステップモードに切り替わります。(P11)
MHzステップモード中、キーを短く押すごとに、バンド切り替え→10MHzステップ→1MHzステップによる周波数設定(チューニングステップ)を切り替えます。(P11)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すと、周波数ステップモードの“ON/OFF”を切り替えます。(P11)

⑥ VOL (音量) ツマミ

- ➡ 受信時の音量を調整するツマミです。(P9)
聞きやすい音量に調整します。

⑦ DIAL (ダイヤル) ツマミ

- ➡ VFOモードでは周波数の設定(☞ P11)、メモリーモードではメモリーチャンネル(M-CH)を呼び出します。(☞ P18、19)
- ➡ 周波数ステップモード時は、周波数ステップを切り替えます。(☞ P11)
- ➡ 受信モード(電波型式)設定モード時は、受信モードを切り替えます。(☞ P10)
- ➡ SETモード時は、設定値を切り替えます。(☞ P53)
- ➡ 各種トーン機能設定モード時は、各種トーンが選択できます。(☞ P33、34)。
- ➡ また、スキャンの方向を変えるときにも使用します。(☞ P27、36)

⑧ SQL (スケルチ) ツマミ

- スケルチレベルを調整するツマミです。(☞ P9)
通常は、雑音が消え“BUSY”表示が消灯する位置にセットします。

⑨ ATT PRIO (アッテネーター/プライオリティスキャン) キー

- ➡ キーを短く押すごとに、アッテネーター機能を“ON/OFF”します。(☞ P12)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すごとに、プライオリティスキャンを「スタート/ストップ」します。(☞ P31、32)

⑩ MODE SCAN (受信モード/スキャン) キー

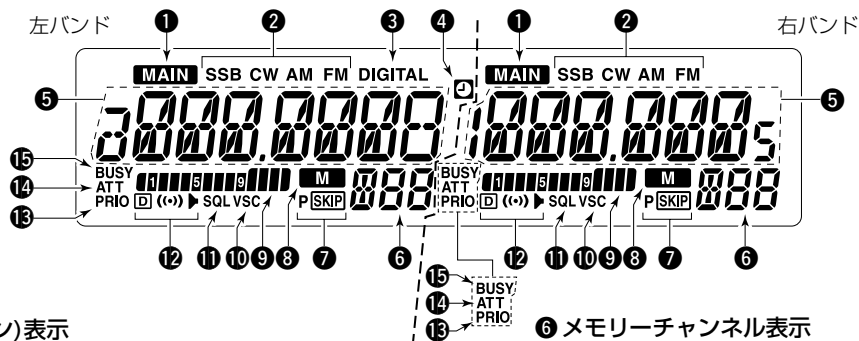
- ➡ キーを短く押すと、受信モード(電波型式)設定モードに切り替わります。(☞ P10)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すごとに、各種スキャンがスタートします。(☞ P29、30、32)

⑪ MONI T/T-SCAN (モニター/トーン/トーンスキャン) キー

- ➡ キーを短く押すごとに、モニター機能を“ON/OFF”します。(☞ P9)
- ➡ キーを長く(約1秒)押すと、各種トーン機能(トーンスケルチ/ポケットビーブ/DTCS)設定モードになります。(☞ P33、34)
- ➡ 各種トーン機能選択モードでキーを長く(約1秒)押すと、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンがスタートします。(☞ P36)

2 各部の名称と機能

■表示部について



① MAIN(メイン)表示

MAINバンドを表示します。(☞ P14)

② 受信モード表示

選択した受信モードを表示します。(☞ P10)

③ DV(デジタル音声)モード表示

DV(デジタル音声)モード選択時に点灯します。
※別売品のUT-118を取り付けたときのみ動作します。

④ ㊄(オートパワーオフ)表示

オートパワーオフ機能が動作中に点灯します。
(☞ P42、56)

⑤ 周波数、セットモード表示

- ➡ VFOモード時、運用周波数を表示します。
- ➡ SETモード時、設定項目と設定内容を表示します。
- ➡ メモリーモード時、運用周波数またはメモリーチャンネル名を表示します。
- ➡ 各種スキャン中は小数点が点滅します。

⑥ メモリーチャンネル表示

メモリーチャンネル(M-CH)、メモリーバンク、SETモードの項目などを表示します。

⑦ P(SKIP)(スキップ)表示

スキップ機能が動作中に点灯します。

SKIP表示点灯 : メモリースキップを表示します。
(☞ P28)

P(SKIP)表示点灯 : 周波数スキップを表示します。
(☞ P28)

※ なお、指定した周波数スキップは、SETモードのプログラムスキャンのスキップの設定項目(☞ P60)で“ON/OFF”できます。

⑧ M(メモリーモード)表示

メモリーモードのときに点灯します。(☞ P18)

⑨ Sメーター表示

受信信号のレベルを表示します。

⑩ VSC(ボイススケルチコントロール)表示

VSC(ボイススケルチコントロール)機能が動作中に点灯します。(※ P39)

⑪ SQL(空線キャンセラー機能、MSK機能)表示

空線キャンセラー機能、MSK機能が動作中に点灯します。(※ P40、41)

⑫ トーン機能表示

各種トーン機能を表示します。(※ P33、34)

- “▶” 点灯 : トーンスケルチ機能を表示します。
- “((○)) ▶” 点灯 : トーンスケルチによるポケットビープ機能を表示します。
- “⑨” 点灯 : DTCSコードスケルチ機能を表示します。
- “⑨ ((○))” 点灯 : DTCSによるポケットビープ機能を表示します。

DV(デジタル音声)モード時は、デジタルコールサインスケルチ、デジタルコードスケルチを表示します。(※ P76、77)

ご使用には、別売品のデジタルユニット(UT-118)が必要です。

- “▶” 点灯 : デジタルコールサインスケルチを表示します。

- “((○)) ▶” 点灯 : デジタルコールサインスケルチによるポケットビープ機能を表示します。
- “⑨” 点灯 : デジタルコードスケルチを表示します。
- “⑨ ((○))” 点灯 : デジタルコードスケルチによるポケットビープ機能を表示します。

⑬ PRIO(プライオリティスキャン)表示

プライオリティスキャン機能が動作中に点灯します。(※ P31、32)

⑭ ATT(アッテネーター)表示

ATT(アッテネーター)機能が動作中に点灯します。(※ P12)

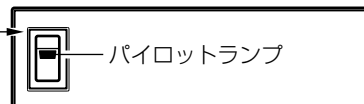
⑮ BUSY表示

受信状態でスケルチが開いているときに点灯します。モニター機能動作中は点滅します。(※ P9)

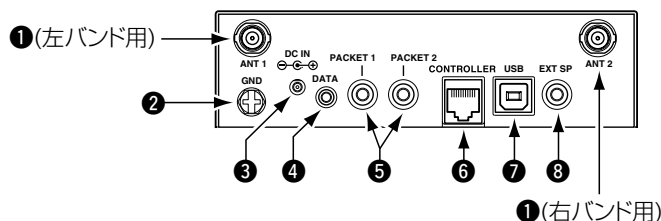
2 各部の名称と機能

■ 本体前面部について

本体電源スイッチ
IC-R2500の本体電源の“ON/OFF”を切り替えます。
※“ON”のときは、パイロットランプが点灯します。



■ 本体後面部について



① アンテナコネクター ([ANT])

付属のアンテナを接続するコネクターです。(☞P1)

② アース端子 ([GND])

アースに接続します。(☞P1)

アース線はお客様でご用意ください。

ガス管、配線管や水道管などは爆発や感電の原因となり大変危険ですから、絶対にアースとして使用しないでください。

③ DCジャック ([DC IN])

付属のACアダプター、または別売品のシガレットライターケーブル(CP-12L)を接続します。(☞P1)

④ DATAジャック ([DATA])

デジタル通信データを受信したとき、データを出力する端子です。(☞P2)

⑤ パケット通信ジャック ([PACKET])

パケット通信を受信するとき、TNCに接続する端子です。(☞P2)

接続ケーブルはお客様でご用意ください。

⑥ コントローラーjack ([CONTROLLER])

コントローラーのケーブルを接続します。(☞P1)

⑦ USBジャック ([USB])



付属のUSBケーブルを使って、パソコンの[USB]ポートと接続します。(☞P1)

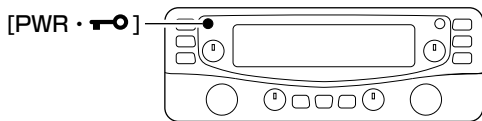
※クローニング、IC-PCR2500としてお使いになるとき以外は使用しないでください。

⑧ 外部スピーカーjack ([EXT SP])

別売品の外部スピーカーやヘッドホン、イヤホンを接続します。

■ 電源の“ON/OFF”のしかた

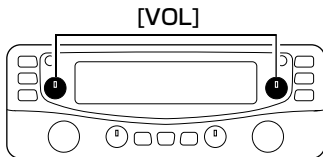
[PWR・再度、[PWR・



■ 音量を調整する

聴きやすい音量に調整します。

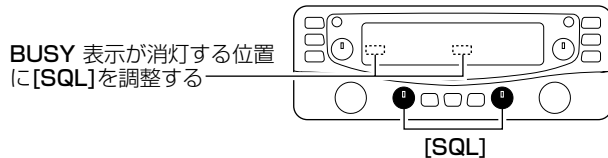
[VOL]ツマミを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。



■ スケルチレベルを調整する

一定レベル以上の電波を受信しないとスピーカーから音が出ないように制限するのがスケルチ機能です。信号が出ていないときや一定レベルより弱い信号を受信しても、雑音や信号が聞こえないので、快適な選局ができます。受信レベルを制限するには、以下の方法があります。

[SQL]ツマミをいったん左に回し切ってから右に回し、雑音が消えなくなり、表示部から“BUSY”表示が消灯する位置にスケルチレベルを設定します。

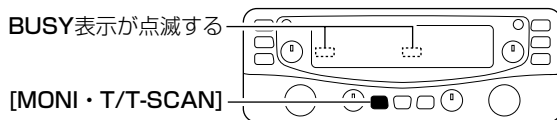


■ モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞きとりにくい場合に効果があります。

[MONI・T/T-SCAN]ボタン短く押しごとの、モニター機能が“ON/OFF”します。

モニター中は“BUSY”表示が点滅します。




3 基本操作のしかた

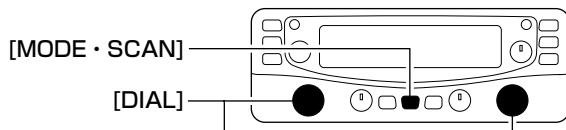
■ 受信モード(電波型式)を設定する

◇ 受信モード(電波形式)を設定するには

受信モードボタンをクリックして、受信モードを設定します。設定できるモードSSB/CW/AM/WFM/FM/AUTO/DV*(デジタル音声)です。

- ① **[MODE・SCAN]** ボタンを短く押すごとに、受信モード設定モードが“ON/OFF”します。
- ② **[DIAL]** を回して、受信モード設定モードを選択します。
※LSB、USB、CW、AM、WFM、FM、AUTO、DV*から選択します。
※AUTOを選択すると、オートマッチックモード機能が“ON”になります。
※右バンドでは、AM、WFM、FMのみご使用いただけます。
- ③ **[PWR・** ボタン以外のボタンを短く押すと、受信モードを決定し、受信モード設定モードを解除します。

*別売品のデジタルユニット(UT-118)が必要です。



◇ オートマッチックモード機能を使用するには

目的の周波数を入力するだけで、受信モードとIFフィルターの帯域幅、周波数ステップを自動設定するオートマッチックモード機能を搭載しています。

左記「受信モード(電波型式)を設定する」で“**AUTO**”を選択してください。

■ 受信周波数を設定するには

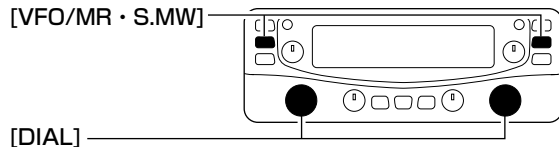
左バンド側では0.010～3299.999999MHz*、右バンド側では50.000～1300.000000MHz*の周波数を設定できます。

*一部周波数を除きます

- ① メモリーモードになっているときは、[VFO/MR・S.MW] ボタンを短く押して、VFOモードにします。
- ② [DIAL]を回して、受信周波数を設定します。
※設定しているチューニングステップ幅で周波数が変わります。

周波数をバンド、1MHz、10MHz幅で設定できます。

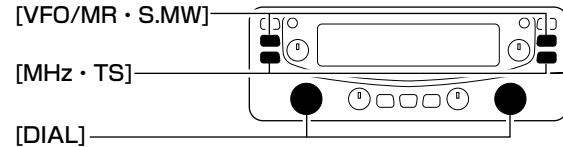
- [MHz・TS]ボタンを短く押して、[DIAL]を回すと、バンドで周波数を設定できます。
※1MHz未満の表示部が消灯します。
- もう一度[MHz・TS]ボタンを短く押して、[DIAL]を回すと、10MHz幅で周波数を設定できます。
※10MHzの表示部が点滅します。
- さらにもう一度[MHz・TS]ボタンを短く押して、[DIAL]を回すと、1MHz幅で周波数を設定できます。
※1MHzの表示部が点滅します。



■ 周波数ステップ(TS)を変更するには

[DIAL]で周波数を選択するときや、スキャン機能で信号を探すときの周波数ステップを選択できます

- ① メモリーモードになっているときは、[VFO/MR・S.MW] ボタンを短く押して、VFOモードにします。
- ② [MHz・TS] ボタン短く押して、周波数ステップ設定モードにします。
- ③ [DIAL]を回すと、周波数ステップが切り替わります。
- ④ [PWR・] ボタン以外のボタンを短く押すと、周波数ステップ設定モードを解除します。



◇ 設定できる周波数ステップ

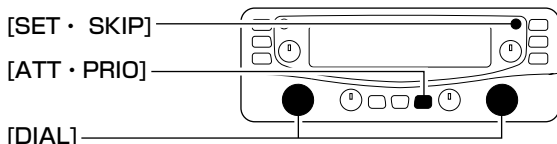
10Hz、20Hz、50Hz、100Hz、500Hz、1kHz、2.5kHz、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz

3 基本操作のしかた

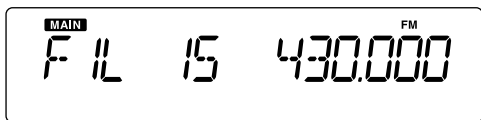
■IFフィルターの切り替えかた

IFフィルターの通過帯域幅を受信形態に応じて切り替えられます。混信で聞きにくいときに“NAR(ナロー)”を選択すると、了解度が改善されることがあります。

- ① [SET・SKIP] ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ② [SET・SKIP] または [ATT・PRIO] ボタンを短く押して、「FIL(IFフィルターの設定)」を選択します。



- ③ [DIAL] を回して、IFフィルターを選択します。
- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



設定するモードによって、IFフィルターは下表のように選択できます。

FILTER	LSB/USB	CW	AM	FM	WFM
230kHz	×	×	×	×	◎
50kHz	×	×	○	○	○
15kHz	×	×	○	◎	×
6kHz	○	○	◎	○	×
3kHz	◎	◎	○	×	×

×：選択できません ○：選択できます ◎：初期設定値

■アッテネーター(ATT)機能について

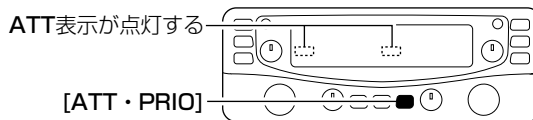
アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに減衰して受信音のひずみを低減します。

アッテネーターの減衰量は、約20dBですが、受信周波数により、変化します。

[ATT・PRIO] ボタンを短く押すごとに、アッテネーターが“ON/OFF”します。

※ “ON”時は表示部に“ATT”が点灯します。

※ アッテネーター機能は、1300MHz以下で動作します。



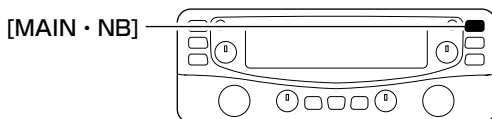
■NB(ノイズブランカー)機能の使いかた

ノイズブランカー機能はLSB/USB/CWモードで受信しているときに、自動車のイグニッションノイズのようなパルス性ノイズが多い場合に使用します。

※NB機能をAMモードで使用すると、受信音がひずむことがあります。

[MAIN・NB]ボタンを長く(約1秒)押すごとに、ノイズブランカー機能の“ON/OFF”を選択します。

※“ON”時は周波数部に“nb-ON”表示が一瞬点灯し、“OFF”時は周波数部に“nb-OFF”表示が一瞬点灯します。




■AFC(自動周波数制御)機能の使いかた

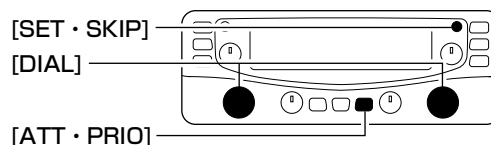
FMモードで受信しているときに、送信している局の周波数が変動すると、音声かひずんだり、雑音が入る場合があります。このような場合に、AFC機能を使用すると、受信信号の周波数変動に自動追従し、常に安定した信号を受信できます。

※この機能は、FMモードでIFフィルターが6kHz、15kHzのどちらかが選択されているときに動作します。

※1000MHz以上の周波数でお使いください。

- ① [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「AFC(AFC機能の設定)」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、AFC機能の“ON/OFF”を選択します。
- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。

※シフト方向に周波数を設定します。



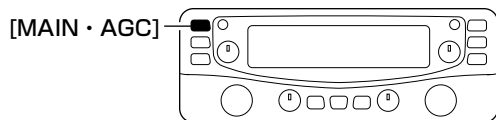
3 基本操作のしかた

■ AGC(自動利得制御)機能について

強力な信号を受信しても、強弱をできるだけ抑えて安定した受信ができるようにします(FM、WFMモードでは動作しません)。

[MAIN・AGC] ボタンを長く(約1秒)押すごとに、AGC機能を“ファースト”/“スロー”に切り替えます。

※ AGCスロー機能は、FM、WFMモードでは動作しません。



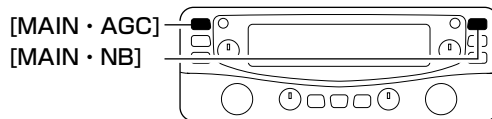
■ 左バンド/右バンドの切り替えについて

モード切り替え、IFシフトの設定、フィルターの設定、各種スキャン、メモリーチャンネルの設定、メモリーバンクの設定、シグナリング機能(TSQL、DTCSなど)、各種ファンクション機能(AFC、NB、ATT、AGC)などを切り替えるとき、左バンドをコントロールするか、右バンドをコントロールするかを切り替えます。

[ご注意]

右バンドを選択すると、周波数範囲(50MHz~1300MHz)、モード(AM/WFM/FM)などに制限があります。

[MAIN・AGC] ボタンを短く押すと左バンドに切り替わり、[MAIN・NB] ボタンを短く押すと右バンドに切り替わります。
※ メインに選択されている側の表示部に、“MAIN”が点灯します。



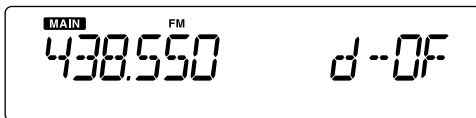
■ シングルワッチモードについて

本製品はシングルワッチモードでもお使いいただけます。1つの信号だけを受信したいときにお使いになると便利な機能です。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「Sub(左バンドの“ON/OFF”設定)」を選択します。
- ④ [DIAL]を回して、“SUB-OF”を選択します。
※右バンドのディスプレイが“d-On”と表示されている場合
右バンドの[DIAL]を回して“d-OF”にしてください。

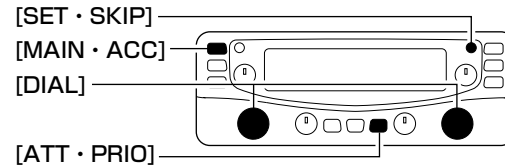


- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除し、シングルワッチモードになります。



[ご注意]

シングルワッチモードにすると、右バンド側では受信できません。

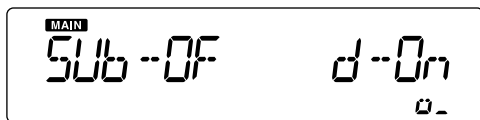


3 基本操作のしかた

■ダイバーシティ受信モードについて

ダイバーシティ受信モードは、2本のアンテナで受信した信号から、強い信号を自動的に選択して受信するモードです。移動中などで安定した受信がお楽しみいただけます。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「Sub(左バンドの“ON/OFF”設定)」を選択します。
- ④ [DIAL]を回して、“Sub-OF”を選択します。
- ⑤ 右バンドの[DIAL]を回して、“d-On”(ダイバーシティ受信モードを“On”)にしてください。

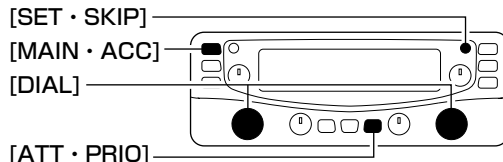


- ⑥ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除し、シングルワッチモードになります。



受信アンテナ表示部

受信アンテナ表示部は、[ANT1]で受信しているとき、“”を表示し、[ANT2]で受信しているとき、“”を表示します。



【ご参考】

ダイバーシティ受信モードの性能を十分発揮させるためには、同一性能のしっかりした2本のアンテナを適当な間隔で設置してください。

【ご注意】

- ダイバーシティ受信モードにすると、右バンド側は受信できません。
- ダイバーシティ受信モードは50MHz～1300MHz以下のFM、DV(デジタル音声)モードのみ動作します。
- 両方のアンテナコネクター([ANT1]、[ANT2])にアンテナを接続してください。
- AGC機能を併用してお使いいただけません。
- FMモードでスケルチをオープンにして、弱い信号を受信した場合、ダイバーシティ受信が動作しないことがあります。

■メモリーモードについて

よく使用する周波数や情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(以下、**M-CH**と略記します。)に記憶させておき、すばやく呼び出して受信するためのモードです。

◆表記について

- 通常のM-CHとして1000CH(バンドの区別はありません)、PROGRAM-CH用チャンネルとして100CH(0<Freq Low>/0<Freq High>~49<Freq Low>/49<Freq High>)の合計1100CH使用できます。
- M-CHに記憶する際は、周波数などの内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◆M-CHに記憶できる内容

すべてのM-CHで周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

- 「メモリーバンク」、「メモリーネーム」、「周波数」、「デュプレックスのON/OFF、シフト方向(+/-)」、「オフセット周波数」、「受信モード(電波型式)」、「トーンスケールチ、DTCSのON/OFF」、トーン周波数、DTCSコード・極性」、「スキップのON/OFF」

◆メモリーチャンネル(M-CH)の内容

19ページにしたがって、メモリーチャンネルにデータを記録してください。

【ご参考】：メモリーチャンネルデータのプリセットについて

オールリセットしたときなどに、メモリーチャンネルを出荷時のプリセット状態に戻したい場合、IC-PCR2500コントロールソフトウェア、クローニングソフトウェア(※P45~52)、付属のCDを使用すると、プリセットメモリーデータを再度メモリーに書き込みます。

- ① IC-PCR2500コントロールソフトウェアを起動します。
- ② 「**■** ファイルを開くには」(※IC-PCR2500取扱説明書のP66)を参照して、付属CDの「PCR2500フォルダー」内の「Preset_j.mchファイル」を開きます。
- ③ クローニングソフトウェアを起動して、データをIC-R2500用に変換(PC → Receiver)します(※P50)。
- ④ クローニングソフトウェアでIC-R2500に書き込みします(※P46)。

△**ご注意**：「Preset_j.mch」ファイルをパソコンのハードディスクにコピーすると、「読み取り専用」ファイルとしてコピーされます。以下の手順で「読み取り専用」を解除してください。

- ① ハードディスクにコピーした「Preset_j.mch」ファイルにカーソルを合わせ、右クリックをしてプロパティを開きます。
- ② 属性の「読み取り専用」のチェックをはずして**[OK]**ボタンをクリックすると、「読み取り専用」が解除されます。

「読み取り専用」の
チェックをはずす



[OK]ボタンを
クリックする

4 メモリーの使いかた

■ M-CHの初期設定値について

チャンネル	おもな用途
0~999 (M-CH)	<ul style="list-style-type: none">● 通常のM-CHとしてご使用いただけます。● 工場出荷時は、一部のメモリーチャンネルにデータがプリセットされています。
0A/0b~ 49A/49b (PROGRAM- CH)	<ul style="list-style-type: none">● プログラムスキャンの周波数設定用 “0A/0b~49A/49b”100CH(50組)● 工場出荷時は、0A/0bチャンネルにもデータがプリセットされています。● 希望の周波数範囲(下限周波数と上限周波数)を書き込んでください。

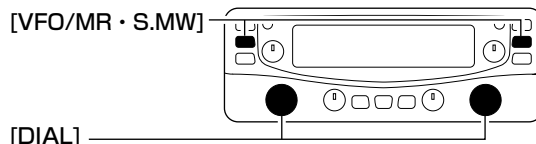
【ご注意】

IC-R2500のメモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。また故障や修理の際にも消失することがあります。
メモリーの内容をバックアップされることをおすすめします。

■ M-CHの呼び出しかた

メモリーしていないM-CHを呼び出すことはできません。

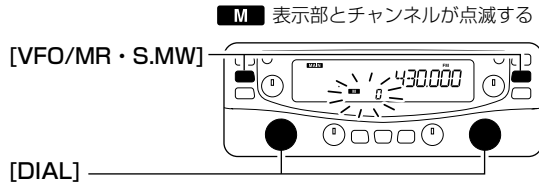
- ① **[VFO/MR・S.MW]**を短く押して、メモリーモードにします。
※ **[VFO/MR・S.MW]**を短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
※メモリーモードでは、“**M**”が表示部に点灯します。
- ② **[DIAL]**を回して、M-CHを選択します。
※書き込まれているM-CHだけを呼び出します。



■ M-CHの呼び出しかた (つづき)

◇ すべてのM-CHを呼び出す

- ① [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅します。)
- ② [DIAL]を回すと、すべてのM-CHを呼び出せます。
※セレクトメモリーライト状態では、“**M**”とM-CHが点滅します。



■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

M-CH、PROGRAM-CHへの書き込み、または書き替えをします。

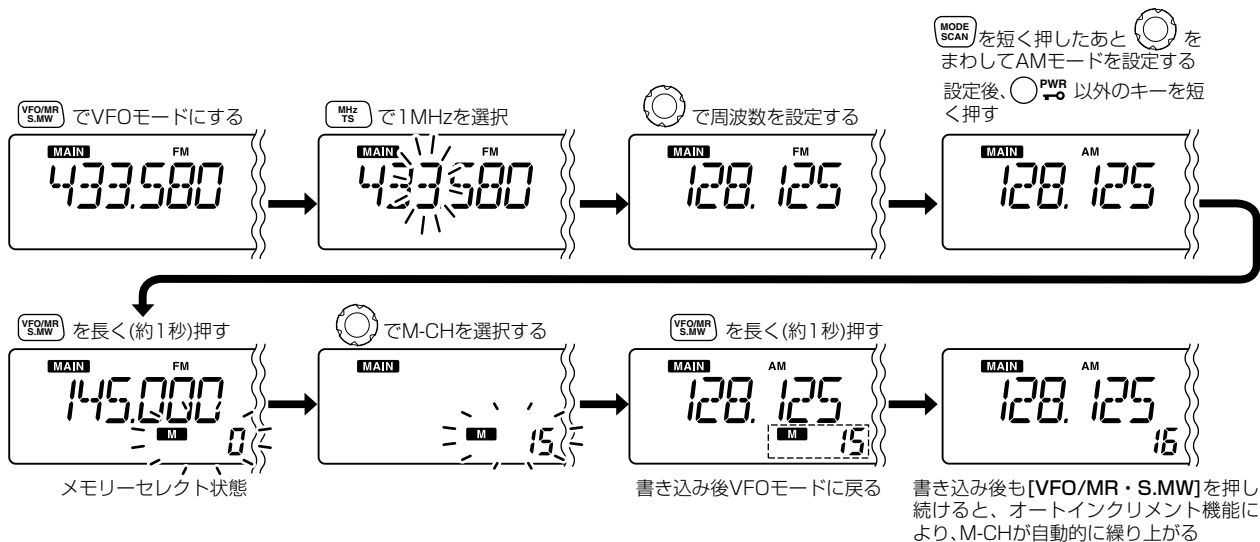
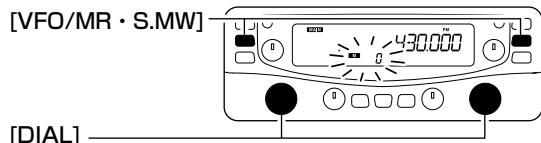
◇ M-CHの書き込みかた

《例》 M-CH“15”に“128.125MHz /AM”をメモリーする

- ① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、VFOモードにします。
- ② [DIAL]を回して、周波数(128.125MHz)を設定します。
※「受信周波数を設定するには」(P11)をご参照願います。
- ③ [MODE・SCAN]を短く押して、受信モード設定モードにします。
- ④ [DIAL]を回して、受信モードを“AM”に設定します。
- ⑤ [PWR・**→**]以外のボタンを短して、受信モード設定モードを解除します。
- ⑥ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(“**M**”とM-CHが点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ⑦ [DIAL]を回して、M-CH“15”を選択します。
※“VFO”を選択するとVFOに書き込みます。
※“OA/Ob~49A/49b”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑧ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押すと、メモリーに書き込み、書き込んだ内容を表示してVFOモードに戻ります。

4 メモリーの使いかた

■メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた (つづき)



◇ 書き込み後のオートインクリメントについて

前記⑧で[VFO/MR・S.MW]を書き込み完了後も押し続ける(約1秒)と、M-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。

M-CHを続けて書き込みをするときに便利な機能です。

◇ M-CHの内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CHの周辺に移って交信する場合などに便利な機能です。

① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。

※ 押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

② [DIAL]を回して、希望のM-CHを呼び出します。

③ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押します。

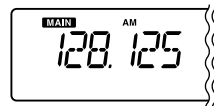
M-CH表示に“VFO”が表示され、M-CHの内容をVFOに転送して、VFOモードになります。

希望のM-CHを選択する



[VFO/MR
S.MW] を押す

VFOモードに転送する



◇ M-CHの内容を他のチャンネルへ複写するには

M-CHの内容をプログラムスキャン用周波数として複写する場合に便利な機能です。

① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。

※ 押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

② [DIAL]を回して、希望のM-CHを呼び出します。

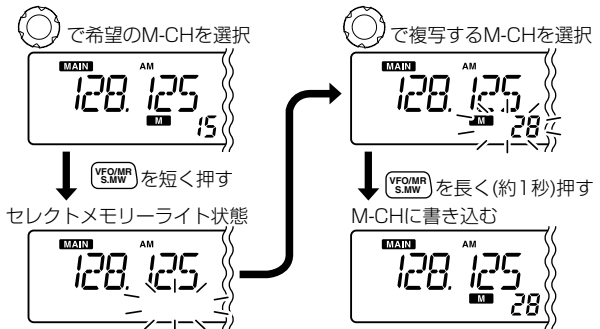
③ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。

(“M”とM-CHが点滅して、メモリー内容を表示します。)

④ [DIAL]を回して、複写したいM-CHを選びます。

※ “VFO”を選択するとVFO、“0A/0b~49A/49b”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。

⑤ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押します。



4 メモリーの使いかた

■ M-CHをバンクで編集する

本機のM-CHは1100CHあります。

1100CHに書き込んだM-CHの内容を21個のバンク(A、b、C、d、E、F、G、H、J、k、L、m、n、o、P、q、R、t、U、W、y)に分割して編集することができます。

各バンクには、0～999および0A～49bのすべてのM-CHを割り当てることができます。

◇ M-CHとバンクの使用例

M-CHの内容		バンクの内容			
0 145.000MHz	A	A (バンク) 145.000MHz } 145.140MHz } 144MHz帯 2 433.000MHz } を編集する 3 145.120MHz } 4 435.340MHz } 5 145.040MHz } 6 433.560MHz } 7 850.480MHz } 8 850.560MHz } 9 468.620MHz } 10 912.050MHz } 11 118.200MHz } 12 906.250MHz } 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } 999 119.870MHz } C			
	A		b (バンク) 433.000MHz } 433.560MHz } 430MHz帯 10 912.050MHz } を編集する 11 118.200MHz } 12 906.250MHz } 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C		
	b			C (バンク) 118.200MHz } 118.125MHz } 118MHz帯 12 906.250MHz } を編集する 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C	
	A				A (バンク) 145.000MHz } 145.140MHz } 144MHz帯 2 433.000MHz } を編集する 3 145.120MHz } 4 435.340MHz } 5 145.040MHz } 6 433.560MHz } 7 850.480MHz } 8 850.560MHz } 9 468.620MHz } 10 912.050MHz } 11 118.200MHz } 12 906.250MHz } 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C
	b				
	C	C (バンク) 118.200MHz } 118.125MHz } 118MHz帯 12 906.250MHz } を編集する 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C			
	A		A (バンク) 145.000MHz } 145.140MHz } 144MHz帯 2 433.000MHz } を編集する 3 145.120MHz } 4 435.340MHz } 5 145.040MHz } 6 433.560MHz } 7 850.480MHz } 8 850.560MHz } 9 468.620MHz } 10 912.050MHz } 11 118.200MHz } 12 906.250MHz } 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C		
	b			b (バンク) 433.000MHz } 433.560MHz } 430MHz帯 10 912.050MHz } を編集する 11 118.200MHz } 12 906.250MHz } 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C	
	C				C (バンク) 118.200MHz } 118.125MHz } 118MHz帯 12 906.250MHz } を編集する 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C
	A	A (バンク) 145.000MHz } 145.140MHz } 144MHz帯 2 433.000MHz } を編集する 3 145.120MHz } 4 435.340MHz } 5 145.040MHz } 6 433.560MHz } 7 850.480MHz } 8 850.560MHz } 9 468.620MHz } 10 912.050MHz } 11 118.200MHz } 12 906.250MHz } 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C			
	b		b (バンク) 433.000MHz } 433.560MHz } 430MHz帯 10 912.050MHz } を編集する 11 118.200MHz } 12 906.250MHz } 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C		
	C			C (バンク) 118.200MHz } 118.125MHz } 118MHz帯 12 906.250MHz } を編集する 13 118.125MHz } 14 145.540MHz } 15 369.850MHz } 16 434.720MHz } 17 858.050MHz } 18 851.700MHz } 19 853.795MHz } 20 127.700MHz } 21 146.300MHz } C	

◇ バンクのM-CH表記について

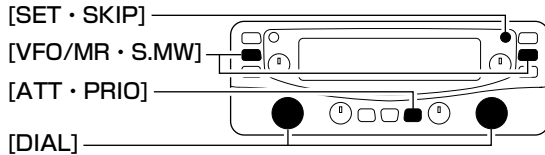
各バンクに編集されたM-CHは、書き込んだ順に編集されます。また、各バンクで編集したバンクのチャンネル番号は表示されません。

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。編集元のM-CHを変更または更新するとメモリーバンクの内容も変更されます。

◇ 編集のしかた

- ① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。
※ 押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
- ② [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ③ [DIAL]を回して、バンクに編集するM-CHを選びます。
- ④ [SET・SKIP]を短く押して、「メモリーバンクの設定」モードにします(周波数表示部に“bAnk”が表示されます)。
- ⑤ [DIAL]を回して、メモリーバンク(A～y、ただし、l、s、v、xを除く)を選択します。
- ⑥ [ATT・PRIO]を短く押し、[DIAL]を回して、M-CHを選択します。
- ⑦ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押すと、選択したメモリーバンクに書き込み、メモリー状態になります。

●メモリーバンク編集の操作



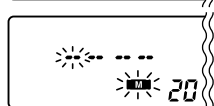
メモリーモードでM-CHを選択



↓ [VFO/MR・S.MW] を長く押す

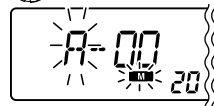


↓ [SET SKIP] を短く押す



すでに編集したM-CHを選択した場合は、編集しているバンクを表示する

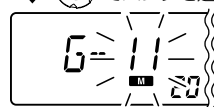
でバンクを選択する



↓ [ATT PRIO] を短く押す



↓ でバンクを選択する



↓ [VFO/MR・S.MW] を長く押す



SETモードを解除するとバンク“G”に編集される

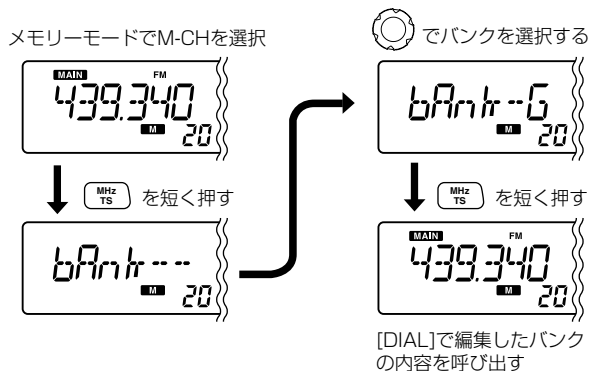
◇メモリーバンクに編集した内容を確認するには

メモリーバンクを設定していないときはこの機能を使えません。お使いになる場合は、前ページを参照してM-CHをバンクで編集してください。

- ① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。
※ 押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
- ② [MHz・TS]を短く押して、メモリーバンク選択状態にします。
- ③ [DIAL]を回して、内容を確認したいメモリーバンク(A～y、ただし、l、s、v、xを除く)を選択します。
- ④ [PWR・]以外のボタンを短く押すと、メモリーバンクに編集した内容呼び出します。
- ⑤ [DIAL]を回すと、バンク内のM-CHを変更できます。
※ VFOモードに戻るときは、[VFO/MR・S.MW]を短く押します。
※ メモリーバンクを解除するときには、[MHz・TS]を短く押し、[DIAL]を回して、“bAnk --”を選択して、[PWR・]以外のボタンを短く押します。

4 メモリーの使いかた

■ M-CHをバンクで編集する (つづき)



■ メモリーネームの使いかた

メモリーに記憶しているM-CHにアルファベット、数字、記号を使用して、6文字以内で名前(ネーム)を入れることができます。

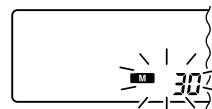
◇ メモリーネームを入力する

《例》M-CH“30”に“TRAIN”のメモリーネームを入れる場合

- ① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。
※ 押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
- ② [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)

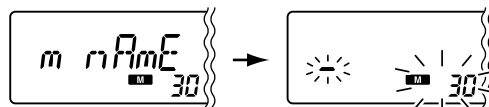


- ③ [DIAL]を回して、ネームを入れるM-CH“30”を選びます。

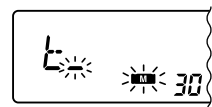


- ④ [SET・SKIP]を2回短く押すと、メモリーネーム表示画面(“m nAmE”が表示されます)となり、ネームの1桁目と“M”表示が同時に点滅します。

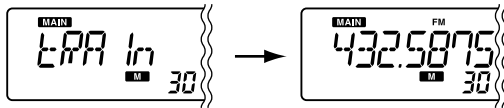
※ すでにネームが登録されているときはネームを表示、未登録のときはブランク表示となります。



- ⑤ [DIAL]を回して、1桁目の文字“T”を選びます。
- ⑥ [ATT・PRIO]を短く押して、文字を入れる桁を選びます。



- ⑦ 前記⑤～⑥を繰り返して、6文字以内で名前を入れます。
 ⑧ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押すと、書き込んでメモリーモードに戻ります。



※ 名前を訂正したいときは、メモリー名前を入れなおしてください。
 最後に入れた名前が有効となります。

● 文字入力一覧表

(space)	A(A)	b(B)	C(C)	d(D)	E(E)	F(F)	G(G)	H(H)	I(I)
J(J)	k(K)	L(L)	m(M)	n(N)	O(O)	P(P)	q(Q)	R(R)	S(S)
t(T)	U(U)	v(V)	w(W)	x(X)	y(Y)	Z(Z)	0(0)	1(1)	2(2)
3(3)	4(4)	5(5)	6(6)	7(7)	8(8)	9(9)	+(+)	-(-)	/(/)
=(=)									

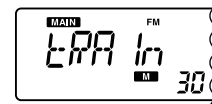
◇ メモリー名を表示するには

メモリー名の表示は、SETモードで設定します。

《例》 M-CH“30”のメモリー名を表示する場合

- ① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。
 ※ 押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
- ② [DIAL]を回して、名前を入れたM-CH“30”を選びます。
- ③ [SET・SKIP]を短く押して、SETモードにします。
 このとき、「メモリー名の設定」項目を表示します。
- ④ [DIAL]を回して、「Anm - On」を選択します。
 - Anm - OF : メモリー名を表示しない。
(初期設定)
 - Anm - On : 周波数表示部にメモリー名を表示します。
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除し、メモリー名を表示します。
 ※メモリー名が入っていないチャンネルは、メモリーの周波数が表示されます。

メモリー名表示



4 メモリーの使いかた

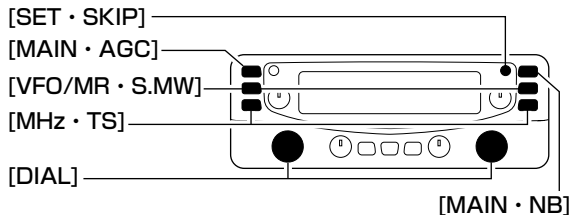
■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHを消去します。

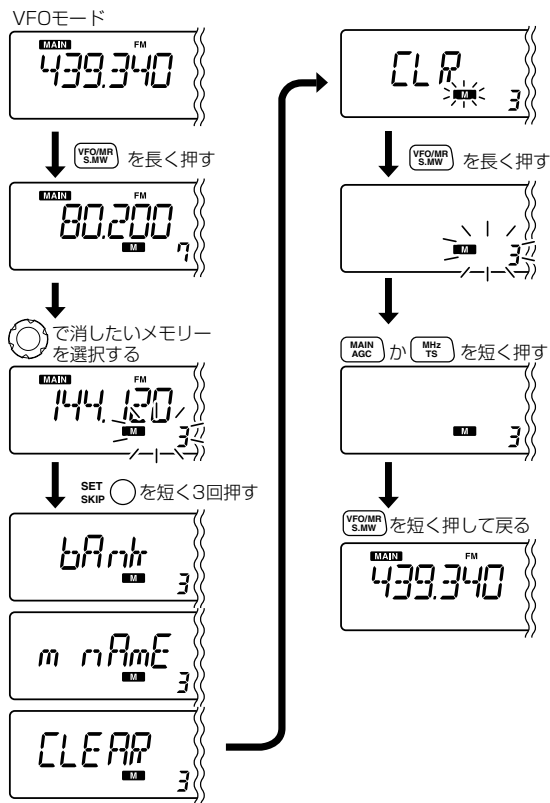
いったん消去したM-CHの内容は、元に戻せないのご注意ください。

◇メモリーの内容を消去する

- ① [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
※VFOモードまたはメモリーモードに関係なく動作します。
- ② [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。
- ③ [SET・SKIP]を3回短く押すと、メモリーチャンネル削除画面となり、“CLEAR”が一瞬表示されてから“CLR”が表示されます。
- ④ [VFO/MR・S.MW]を長く(約1秒)押すと、メモリー内容を消去して、セレクトメモリーライト状態になります。
- ⑤ 消去後、[VFO/MR・S.MW]を押すと、VFOモードに戻ります。



●メモリークリア操作



■スキヤンについて

スキヤンとは、周波数やM-CHを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

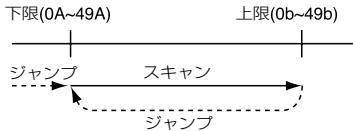
VFOモードのスキヤン

●フルスキヤンの動作(☞P29)



本機に定められた周波数範囲をスキヤンします。

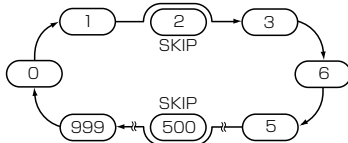
●プログラムスキヤンの動作(☞P29)



PROGRAM-CHに書き込まれた周波数範囲をスキヤンします。

メモリーモードのスキヤン

●メモリー/バンクスキヤンの動作(☞P30)



M-CH、または指定したバンクに編集されたM-CHをスキヤンします。

※チャンネル番号は表示されず周波数表示のみ切り替わる

◇スケルチの調整

通常は雑音が消え“BUSY”表示が消灯する位置にセットしておきます。

スキヤン動作中でも、スケルチの調整ができます。

◇スキヤン中の[DIAL]ツマミについて

- スキヤン中に[DIAL]を回すと、回した方向でアップスキヤンとダウンスキヤンを切り替えます。
- 信号を受信してスキヤンを一時停止しているときに、[DIAL]を回すと即時再スタートします。

◇スキヤン中のステップについて

スキヤン中に周波数を切り替えるステップ幅は、あらかじめ各バンドに設定しているチューニングステップ(☞P11)で動作します。

◇スキップ機能について

すべてのスキヤンでスキップ(必要のないM-CHをスキヤンから除外する)指定ができます。

スキップの設定については28ページを参照してください。

◇受信モード(電波型式)について

VFOモードで設定している受信モード(電波型式)で動作します。

5 スキャンのしかた

■ スキャンについて (つづき)

◇ 信号を受信すると

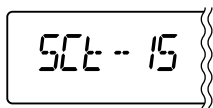
スキャン中に信号を受信すると、その周波数で約15秒(初期設定)間停止して受信します。


約15秒経過すると、自動的に再スタートします。

◇ 再スタートの条件設定









再スタートの条件は、SETモードで変更できます。

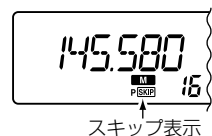
- ① [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「スキャンストップタイマーの設定」項目を選択します。



- ③ [DIAL]を回して、再スタートの条件を選択します。
 - SCt-5 : 一時停止してから5秒後に再スタートします。
 - SCt-10 : 一時停止してから10秒後に再スタートします。
 - SCt-15 : 一時停止してから15秒後に再スタートします。
(初期設定値)
 - SCP-2 : 信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。
- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。

◇ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

- ① [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。
 - ② [SET・SKIP]を長く(約1秒)押すごとに、スキップ機能が切り替わります。
 - 、P 点灯していないとき、メモリーチャンネルのスキップ機能を解除します。(初期設定値)
 - 、P 点灯しているとき、スキップ機能を“ON”にします。
- ※ 、P 表示が点灯、メモリースキャン時、指定したM-CHをスキップします。
- なお、P 表示が点灯時は、VFOスキャン時にその周波数をスキップします。
- ③ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。



■ VFOスキヤンのしかた

◇ VFOスキヤン/プログラムスキヤンの操作

- フルススキヤンは、本機に定められた周波数範囲をスキヤンします。
(周波数範囲については83ページを参照してください。)
 - プログラムスキヤンは、次の周波数範囲をスキヤンします。
- ① **[VFO/MR・S.MW]**を短く押して、VFOモードにします。
 - ② **[MODE・SCAN]**を長く(約1秒)押すと、VFOスキヤンを開始します。
(メモリー表示部にスキヤンガイダンス表示が点滅します。)
※スキヤン中に**[SET・SKIP]**または**[ATT・PRIO]**を短く押すと、VFOスキヤン、プログラムスキヤンを切り替えることができます。
[SET・SKIP]を押すごとに、**ALL→P00→P01→・・・→P48→P49→ALL→P00→・・・**の順に切り替わります。
[ATT・PRIO]を押すごとに、**ALL→P49→P48→・・・→P01→P00→ALL→P49→・・・**の順に切り替わります。

【ご参考】

※スキヤンをスタートする前に、**[MODE・SCAN]**を押しながら、**[DIAL]**を回しても、VFOスキヤン、プログラムスキヤンを切り替えることができます。

[MODE・SCAN]を離すとスキヤンがスタートします。

メモリー表示部のスキヤンガイダンスの表示内容について

- **ALL** : フルススキヤン動作となります。
 - **P00** : 0A/0bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P01** : 1A/1bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P02** : 2A/2bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P03** : 3A/3bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P04** : 4A/4bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P46** : 46A/46bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P47** : 47A/47bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P48** : 48A/48bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
 - **P49** : 49A/49bに設定された周波数範囲をスキヤンします。
- ③再度、**[MODE・SCAN]**を短く押すと、VFOスキヤン、プログラムスキヤンを解除します。

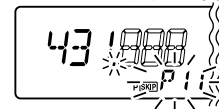
【ご注意】

A、bチャンネルに同じ周波数を入力した場合(例：0Aと0bに438.500MHzなど)、プログラムスキヤンが動作しませんのでご注意ください。

フルスキヤンの表示



プログラムスキヤンの表示



5 スキャンのしかた

■メモリスキャンのしかた

◇メモリスキャンの操作

メモリスキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。

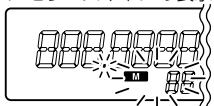
スキップチャンネルに指定したM-CH(**SKIP**が点灯)は、スキャンスタート操作をしたとき、そのM-CHをスキップしてスキャンします。

※ PROGRAM-CHはスキャンしません。

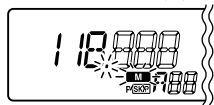
※ 2CH以上の書き込みが必要です。

- ① **[VFO/MR・S.MW]**を短く押して、メモリーモードにします。
- ② **[MODE・SCAN]**を長く(約1秒)押すと、メモリスキャンを開始します。
- ③ 再度、**[MODE・SCAN]**を短く押すと、メモリスキャンを解除します。

メモリスキャンの表示



メモリーバンクスキャンの表示



■メモリーバンクスキャンのしかた

◇メモリーバンクスキャンの操作

指定したバンクに編集されたM-CH(周波数)をスキャンします。


※ バンクに編集したチャンネル番号は表示されません。

※ SETモードでメモリーバンクのリンク機能(**LINK** P60)が設定されている場合は、リンクしているバンクもスキャンします。

※ スキップが指定されたM-CH(周波数)はスキップしてスキャンします。

※ PROGRAM-CHはスキャンしません。

※ 1つのバンクにつき、2CH以上の書き込みが必要です。

- ① **[VFO/MR・S.MW]**を短く押して、メモリーモードにします。
- ② **[MHz・TS]**を短く押して、メモリーバンク選択状態にします。(メモリー表示部が点滅します。)
※ 選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクを表示します。
- ③ **[DIAL]**を回して、メモリーバンク(**A~y**、ただし、**l**、**s**、**v**、**x**を除く)を選択します。
- ④ **[PWR・**]**以外のボタン**を短くを短く押して、バンクを設定します。
- ⑤ **[MODE・SCAN]**を長く(約1秒)押すと、選択したバンクスキャンを開始します。
- ⑥ **[MODE・SCAN]**を短く押すと、バンクスキャンを解除します。

■ プライオリティスキャンについて

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を知るためのスキャンです。

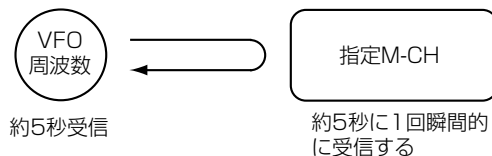
プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

- 受信する周波数/M-CHは、約5秒ごとに1回(0.5秒以内)受信し、信号を受信すると他のスキャンと同様に一時停止します。
受信する周波数/M-CHを、プライオリティCH(チャンネル)といいます。
- ※一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(P28)

種 類	動 作
VFO周波数とM-CH	VFO周波数を約5秒間受信しながら、指定のM-CHの信号の有無を受信(監視)します。
VFO周波数とメモリスキャン	VFO周波数を約5秒間受信しながら、スキャン中のM-CHを順次受信(監視)します。
VFO周波数とメモリーブランク	VFO周波数を約5秒間受信しながら、指定のメモリーブランクに編集したM-CHの周波数を受信(監視)します。

◇ VFO周波数を受信中にM-CHを受信する

- ① VFOモードで周波数を設定します。(P11)
- ② メモリーモードで受信するM-CHを指定します。(P18)
- ③ [ATT・PRIO]を長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを開始します。
(プライオリティスキャン中は“PRIO”表示が点灯します。)
- ④ 再度、[ATT・PRIO]を長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを解除します。

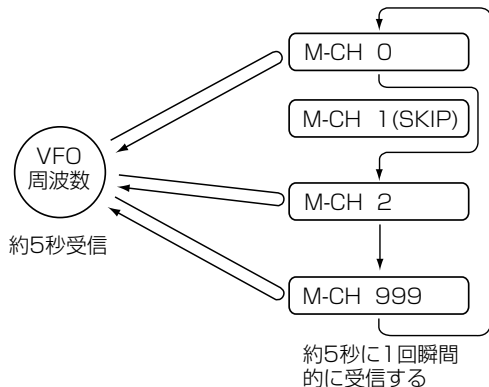


6 プライオリティスキャンの操作

■ プライオリティスキャンについて (つづき)

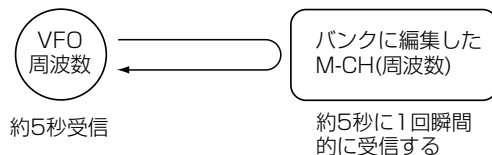
◇ VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する

- ① VFOモードで周波数を設定します。(P11)
- ② メモリーモードに設定します。(P18)
- ③ [MODE・SCAN]スイッチを長く(約1秒)押して、メモリースキャンをスタートさせます。
- ④ [ATT・PRIO]スイッチを長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを開始します。
(プライオリティスキャン中は“PRIO”表示が点灯します。)
- ⑤ 再度、[ATT・PRIO]を長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを解除します。



◇ VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CH(周波数表示のみ)を受信する

- ① VFOモードで周波数を設定します。(P11)
- ② [VFO/MR・S.MW]を短く押して、メモリーモードにします。
- ③ [MHz・TS]を短く押して、メモリーバンク選択状態にします。(メモリー表示部が点滅します。)
- ④ [DIAL]を回して、メモリーバンク(A~y、ただし、l、s、v、xを除く)を選択します。
- ⑤ [PWR・]以外のボタンを短く押して、バンクを設定します。
- ⑥ [DIAL]を回して、バンクに編集した周波数を選択します。
- ⑦ [ATT・PRIO]スイッチを長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを開始します。
(プライオリティスキャン中は“PRIO”表示が点灯します。)
- ⑧ 再度、[ATT・PRIO]を長く(約1秒)押すと、プライオリティスキャンを解除します。



■ トーンスケルチ機能の使いかた

◇ トーンスケルチ機能とは

特定の相手局の信号を受信するときに便利な機能です。
設定したトーン周波数またはDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開くので、快適な待ち受け受信ができます。

◇ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ機能での待ち受け受信時、呼び出しを受けたらビープ音で知らせてくれる便利な機能です。
呼び出しを受けると、ビープ音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイの“(●)”を点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことはありません。

● トーン周波数一覧表

単位：Hz

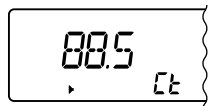
67.0	82.5	103.5	131.8	162.2	183.5	206.5	250.3
69.3	85.4	107.2	136.5	165.5	186.2	210.7	254.1
71.0	88.5	110.9	141.3	167.9	189.9	218.1	
71.9	91.5	114.8	146.2	171.3	192.8	225.7	
74.4	94.8	118.8	151.4	173.8	196.6	229.1	
77.0	97.4	123.0	156.7	177.3	199.5	233.6	
79.7	100.0	127.3	159.8	179.9	203.5	241.8	

◇ CTCSS トーン周波数を設定する

CTCSS トーン周波数は、SETモードで設定できます。

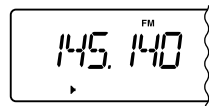
- ① [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「トーンスケルチ用トーン周波数の設定」項目を選択します。

- ③ [DIAL]を回して、トーン周波数を選択します。



- 88.5Hz
(初期設定値)

- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。
- ⑤ [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押して、トーン機能/DTCS機能設定モードにします。
- ⑥ [DIAL]を回して、下記からCTCSS トーン機能を設定します。
 - “tSqL”(CTCSS トーン：表示部に“▶”が点灯)
 - “tSqL”(CTCSS トーンによるポケットビープ：表示部に“(●) ▶”が点灯)
 - “tSqL-r”(CTCSS トーンリバースアクション：表示部に“▶”が点灯)
- ⑦ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、トーン機能/DTCS機能設定モードを解除します。



7 トーン機能/DTCS機能について

■ DTCS機能の使いかた

◇ DTCS機能とは

特定のコードを含んだ信号を受信するのに便利な機能です。自局が設定したコード(初期設定値：023-N)と同じコードで受信したときだけ、スクルチが開き受信できます。

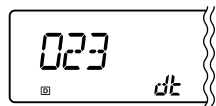
● コード一覧表

023	065	132	205	255	331	413	465	612	731
025	071	134	212	261	332	423	466	624	732
026	072	143	223	263	343	431	503	627	734
031	073	145	225	265	346	432	506	631	743
032	074	152	226	266	351	445	516	632	754
036	114	155	243	271	356	446	523	654	
043	115	156	244	274	364	452	526	662	
047	116	162	245	306	365	454	532	664	
051	122	165	246	311	371	455	546	703	
053	125	172	251	315	411	462	565	712	
054	131	174	252	325	412	464	606	723	

◇ DTCSコードを設定する

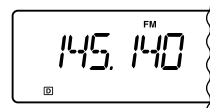
DTCSコードは、SETモードで設定できます。

- ① [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「DTCSコードの設定」項目を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、DTCSコードを選択します。



- 023
(初期設定値)

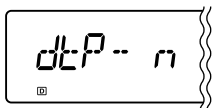
- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。
- ⑤ [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押して、トーン機能/DTCS機能設定モードにします。
- ⑥ [DIAL]を回して、下記からDTCSトーン機能を設定します。
 - “dtCS”(DTCS：表示部に“”が点灯)
 - “dtCS”(DTCSによるポケットビープ：表示部に“”)が点灯)
 - “dtCS--r”(DTCSリバースアクション：表示部に“”が点灯)
- ⑦ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、トーン機能/DTCS機能設定モードを解除します。



■ DTCS極性反転機能について

受信する相手局に合わせて、DTCSコードの極性を設定できます。

- ① [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「DTCS位相反転機能の設定」項目を選択します。



- ③ [DIAL]を回して、下記から選択します。
 - dtP - n : 反転しません。(初期設定値)
 - dtP - r : 反転します。
- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、トーン機能/DTCS機能設定モードを解除します。

7 トーン機能/DTCS機能について

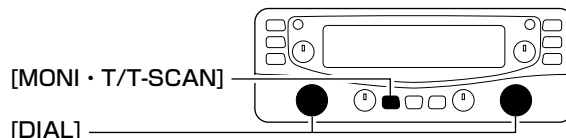
■ トーン/コードスキャンのしかた

トーンスケルチ機能(☞P33)を使用して交信している局が、どのトーン周波数またはDTCSコード(☞P33、34)を使用しているかを検知するスキャンです。

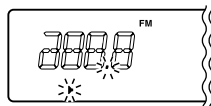
- VFO/メモリーモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[DIAL]を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。

◇ スタート操作

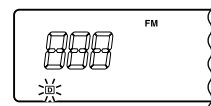
- ① [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押し、[DIAL]を回してトーンスケルチ(“tSQL”または“tSQL-r”)、またはDTCS(“dtCS”または“dtCS-r”)に設定します。(P33～34を参照してください。)
- ② [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押します。トーン周波数またはDTCSコードを表示して、トーン周波数スキャン、またはDTCSコードスキャンを開始します。
 - スキャン中にスケルチが開いているときはゆっくり、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。
 - 一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと(VFOモード時のみ)、スキャンを再スタートします。
 - ポケットビープ状態から、トーンスキャンを行うと、ポケットビープを解除して、トーン周波数またはDTCSコードスキャンになります。



※トーンスケルチ設定時のトーンスキャンの表示



※DTCSエンコーダー設定時のトーンスキャンの表示



- **T SQL** : トーンスケルチ用トーンを書き替える
- **DTCS** : DTCSコードを書き替える

[ご注意]

トーンスケルチモードでトーン周波数が一致するとトーンスケルチ用トーン周波数を書き替えます。
レピータ運用またはトーンスケルチ運用時にご注意ください。
ただし、M-CHでトーンスキャンを行ったときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。

■ デュプレクス通信を受信する

◇ デュプレクスとは

デュプレクス通信とは、送信と受信で違った2つの周波数を使用して交信する方式です。

430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。

本機にデュプレクスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数が受信できます。

デュプレクス通信を受信するときは、オフセット周波数の設定も必要です。

◇ オフセット周波数とは

デュプレクス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

本機は、**SETモード**でオフセット周波数を設定します。
(☞P57)

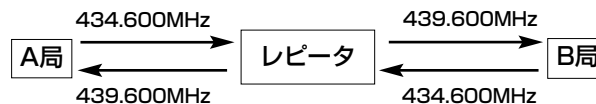
【ご注意】

別売品のデジタルユニット(UT-118)を取り付けると、デジタル音声通信や、D-STAR®レピータの電波を受信できます。

【例】430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局の交信を可能にしたり、通信範囲(通信距離)を拡大させるための、自動無線中継装置のことです。

レピータ交信の概略と周波数例



- 通常、アマチュア無線で運用されている430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。
レピータは、送信されてくる434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。
- 本機で上記通信を受信するには、デュプレクスモードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。
430Mバンドは、レピータ受信用に5.000MHzを初期設定しています。
(1200Mバンドは、レピータ受信用に20.000MHzを初期設定しています)
なお、デュプレクスモードは次のように設定します。
本機の表示(受信)周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは“**- DUPモード**”に、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは“**+ DUPモード**”に設定してください。

8 その他の機能

■ デュプレクス通信を受信する (つづき)

◇ レピータの送信周波数の設定

P11の「受信周波数を設定するには」を参照しながら、下の周波数帯を参考にしてレピータの送信周波数を設定してください。

レピータの周波数帯

送信：439.000～440.000MHz
：1290.000～1293.000MHz
受信：434.000～435.000MHz
：1270.000～1273.000MHz

◇ デュプレクスモードとオフセット周波数の設定

- ① [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「デュプレクスモードの設定」項目を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、“dUP-”または“dUP+”を選択し、デ



ュプレクスモードにします。

※[DIAL]を回すと、“シンプレックス”/“dUP-”/“dUP+”に切り替わります。

- ④ [SET・SKIP]を短く押して、「オフセット周波数の設定」項目を選択します。
- ⑤ [DIAL]を回して、オフセット周波数を設定します。



※[MHz・TS]を短く押すと、10MHzステップでオフセット周波数を設定できます。

このとき、表示部の10MHz部が点滅します。

※もう一度[MHz・TS]を短く押すと、1MHzステップでオフセット周波数を設定できます。

このとき、表示部の1MHz部が点滅します。

- ⑥ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。

◇ デュプレクス通信の両周波数の受信

[MONI・T/T-SCAN]ボタンを短く押します。

- 439.600MHzでオフセット周波数を5.000MHz、デュプレクスを“dUP-”に設定している場合、[MONI・T/T-SCAN]ボタンをクリックすると5.000MHz低い434.600MHzを受信します。
- 1272.340MHzでオフセット周波数を20.000MHz、デュプレクスを“dUP+”に設定している場合、[MONI・T/T-SCAN]ボタンをクリックすると20.000MHz高い1292.340MHzを受信します。

※ [MONI・T/T-SCAN]ボタンを押すと“dUP-”モードのとき、オフセット周波数分低い周波数を受信します。“dUP+”モードのときは、オフセット周波数分高い周波数を受信します(表示部に“MONI”が点灯します)。

■デュプレックスモードを解除するときは

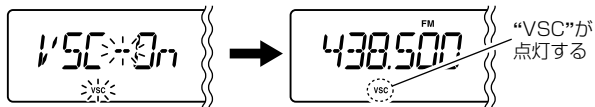
- ① [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「デュプレックスモードの設定」項目を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、“OFF”を選択し、シンプレックスモードにします。
※[DIAL]を回すと、“シンプレックス”/“dUP-”/“dUP+”に切り替わります。

■VSC(ボイススケルチコントロール)機能について

ボイススケルチコントロール機能は、受信した信号に音声信号が含まれているかを識別し、スケルチをコントロールします。

信号に音声信号が含まれていればスケルチを開き、含まれていなければスケルチは開きません。

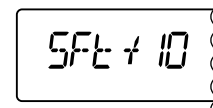
- ① [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「VSC(ボイススケルチコントロール)機能の設定」項目を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、“VSC-On”を選択すると、VSC機能が“ON”になります。
※VSC機能が“ON”のとき、表示部に“VSC”が点灯します。



■IFシフト機能について

IFシフト機能とは、SSB/CWモードでIFフィルターの通過帯域幅を上側または下側に移動し、近接波からの混信を除去する機能です。IFフィルターの通過帯域幅が移動する様子を、グラフィックメニュー表示で見ながら調整できます。

- ① モードをSSBまたはCWに設定します。(※P10)
- ② [SET・SKIP]を短く押して、SETモードを表示します。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「IFシフト機能の設定」項目を選択します。
- ④ [DIAL]を回して、受信周波数に近接する混信信号が減少するように、通過帯域幅を-25~+25の範囲で移動します。



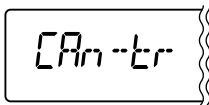
8 その他の機能

■ 空線キャンセラー機能について

空線キャンセラー機能は、鉄道無線の周波数帯をスキャン中に信号を受信すると一時停止して、空線信号を検出するとスキャンを再スタートします。

空線キャンセラー機能は、SETモードで設定します。

- ① 運用モードと周波数を設定します。(P10、11)
- ② [SET・SKIP]を短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「CA n-OF」、「CA n-tr」または「CA n-mS」項目を選択します。



- ④ [DIAL]を回して、「CA n-tr」を選択します。
 - CA n-OF : 空線キャンセラー、MSK機能がOFFになります。(初期設定)
 - CA n-tr : 空線キャンセラー機能が動作します。
 - CA n-mS : MSK信号の制御機能が動作します。
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して空線キャンセラー機能による受信状態になります。

TRAIN(空線キャンセラー)機能による受信状態

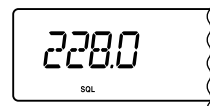


◇ 空線キャンセラー周波数の設定

空線信号の周波数はSETモードで設定できます。

※ 単一受信音(ピーの連続音)の周波数にキャンセラー周波数を合わせると、空線キャンセラーが機能します。

- ① 運用モードと周波数を設定します。(P10、11)
- ② [SET・SKIP]を短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「TRAIN周波数の設定」項目を選択します。
- ④ [SET・SKIP]を短く押して、「TRAIN周波数の設定」項目を選択します。



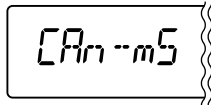
- ⑤ [DIAL]を回して、TRAIN周波数を設定します。
 - ※ 300~3000Hzの範囲を、10Hzステップで設定できます。
- ⑥ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して受信状態になります。

- 空線キャンセラー機能、MSK機能は受信信号が弱いときや、ノイズが多いときなどは正しく動作しないことがあります。
- 空線キャンセラー機能、MSK機能はすべての空線信号またはMSK信号を検出するものではありません。MSK信号は1200bpsのMSK信号を検出することができます。周波数がズレた場合などは、検出できない場合もあります。

■ MSK機能について

MSK機能は、スキャン中に信号を受信すると一時停止して、MSK制御信号を検出するとスキャンを再スタートします。MSK機能は、SETモードで設定します。

- ① 運用モードと周波数を設定します。(P10、11)
- ② [SET・SKIP]を短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「CAAn - tR]または「CAm - mS]項目を選択します。



- ④ [DIAL]を回して、「CAAn - mS]を選択します。
 - CAAn - tR : 空線キャンセラー機能が動作します。(初期設定)
 - CAAn - mS : MSK信号の制御機能が動作します。
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除してMSK信号の制御機能による受信状態になります。

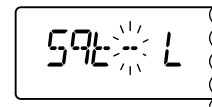
MSK機能による受信状態



■ スケルチディレイを設定する

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間を設定できます。

- ① [SET・SKIP]を短く押します。(SETモードを表示します。)
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、「スケルチディレイの設定」項目を選択します。



- ③ [DIAL]を回して、設定内容を選択します。
 - Sqt - L : スケルチディレイ時間が長くなります。(初期設定値)
 - Sqt - S : スケルチディレイ時間が短くなります。
- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除して周波数表示に戻ります。

■ ビープ音について

キーを操作したときに、その操作が有効か無効かを下記のようにビープ音で知らせる機能です。

● ビープ音の種類



- “ピッ” : 短く押すキー操作が正しいとき
- “ピッ、ピー” : 長く押すキー操作が正しいとき
- “フッ” : キー操作が無効のとき
- “ピッ、ピピ” : メモリー書き込み操作が正しいとき


※ SETモードの「ビープ(操作音)の設定」項目(P56)で、ビープ音の“ON(鳴る)/OFF(鳴らない)”が設定できます。

8 その他の機能

■キーロック機能の使いかた

不用意にツマミやキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

- ① [PWR・- ② [PWR・ロック中は、ディスプレイのメモリー表示部にロック表示“L”を点灯します。

※いずれの状態においても、[MONI・T/T-SCAN](モニター機能のみ)、[MAIN・AGC]、[PWR・

■オートパワーオフ機能の使いかた

このタイマーは、電源の切り忘れを防止するための機能です。運用を終了し、何も操作しない状態が設定したタイマー時間まで続くと、“ピー”音が5回鳴って電源が自動的に切れます。

◇ SETモードの「オートパワーオフ機能の設定」項目(※P56)で時間を設定することができます。

- 30(30分)/1H(1時間)/2H(2時間)の指定時間がすぎると、電源が自動的に切れます。
タイマーを1度セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

※使用しないときは、“OFF”にしておきます。

■クローニングについて

同梱のCDでUSBドライバー、IC-PCR2500コントロールソフトウェアをインストールすると、クローニングソフトウェアが利用できます。

IC-R2500のメモリーデータなどをパソコンにコピーしたり、コピーしたデータをIC-R2500にクローニングできます。

また、IC-PCR2500のデータをIC-R2500用に変換、その逆の変換もできます。

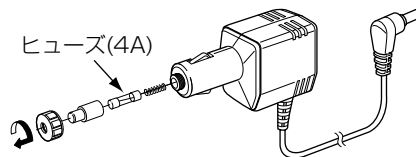
詳しくは(※P45～52)をご覧ください。

※クローニング機能はIC-R2500のみご使用いただけます。

■CP-12L(別売品)のヒューズ交換のしかた

別売品のCP-12Lのヒューズを交換するときは、下図のようにしてヒューズで交換してください。

ヒューズ容量：4A



CP-12L(別売品)

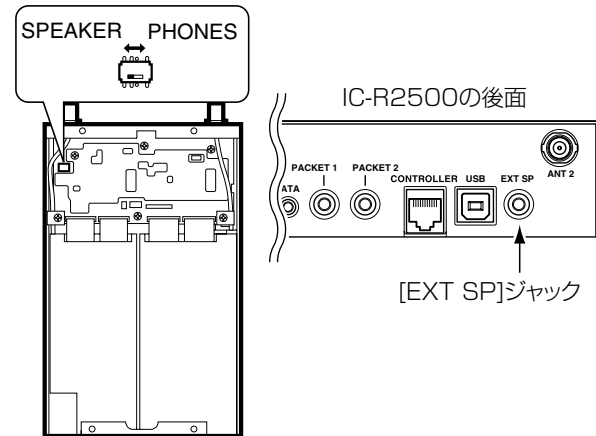
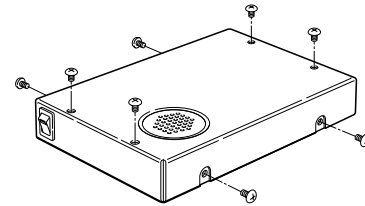
■内部スイッチの切り替えについて

本機内部に外部スピーカー端子制御用スイッチがあります。ヘッドホンやイヤホンをご使用になるとき、外部スピーカーをご使用になるときに切り替えます。

△ご注意

カバーを外す前に、コントロールソフトと本体の電源を切り、ACアダプターのコードと他の接続コードをはずしてから作業にかかってください。

- ① カバーを取り付けている8本のネジをはずします。(右図を参照ください)。
※取り付けネジをなくさないようにご注意ください。
- ② スピーカー接続コードなどをはずし、カバーを取りはずします。
- ③ 右図のスイッチを用途に合わせて切り替えます。
 - ヘッドホンやイヤホンをご使用になるとき、[PHONES]に設定する。
 - 外部スピーカーをご使用になるとき、[SPEAKER]に設定する。(初期設定)
- ② 後面の[EXT SP]ジャックにヘッドホン、イヤホン、または外部スピーカーを接続します。



8 その他の機能

■ リセット操作について

静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作してディスプレイの表示がおかしくなったときは、オールリセット操作をしてください。

● オールリセット機能

すべての操作モードが初期設定値に戻りますので、運用に必要な情報をセットしなおしてご使用ください。プリセットされたメモリーデータもすべて消去されます。

メモリーデータを工場出荷時のプリセット状態に戻すときは、17ページをご覧ください。



運用モード、VFO周波数、バンド、受信モード、チューニングステップ(TS)、M-CH、メモリーバンク、SETモードなど

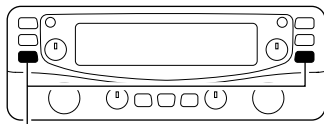
● パーシャルリセット機能

運用モード、VFO周波数、バンド、受信モード、SETモードなどを初期設定値(工場出荷時の状態)に戻します。

メモリー関係(M-CH、メモリーバンクなど)の内容は保持されます。

◇ オールリセットの操作

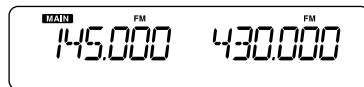
- ① [PWR・]を押して、いったん電源を切ります。
- ② 左バンドと右バンドの[MHz・TS]を同時に押しながら[PWR・]を押して、電源を入れます。
- ③ 左バンドの表示部に“CLEAR”を表示したあと、ビーブ音が鳴り、初期表示になります。





[MHz・TS]

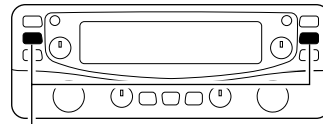


CLEARを表示したあと
初期設定表示になる



◇ パーシャルリセットの操作

- ① [PWR・]を押して、いったん電源を切ります。
- ② 左バンドまたは右バンドの[VFO/MR・S.MW]を押しながら[PWR・]を長く(約1秒)押して、電源を入れます。



[VFO/MR・S.MW]

初期設定表示になる

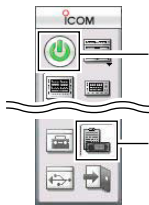


■ クローニングソフトウェアのインストールについて

- USBドライバー、IC-PCR2500コントロールソフトウェアをパソコンにインストールすると、IC-R2500クローニングソフトウェアをご使用いただけます。
- USBドライバー、IC-PCR2500コントロールソフトウェアのインストールについては、IC-PCR2500取扱説明書の3～22ページをご参照ください。

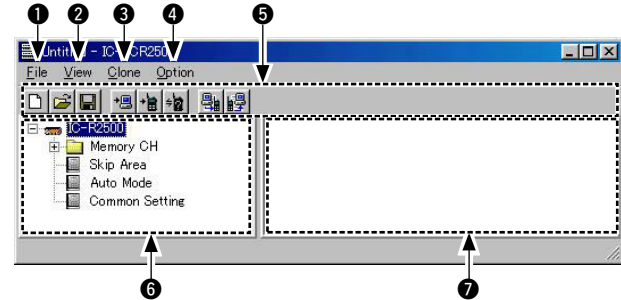
■ IC-R2500クローニングソフトウェアの起動と各部名称について

- ① IC-PCR2500取扱説明書の23ページを参照して、IC-PCR2500コントロールソフトウェアを起動します。
※コントロールソフトウェアの電源が“ON”となっていることを確認してください。
- ② ツールバーの[Clone]アイコンをクリックすると、IC-R2500クローニングソフトウェアが起動します。



コントロールソフトウェアの電源が“OFF”になっているとき、[Power]アイコンをクリックして、電源を“ON”にしてください。

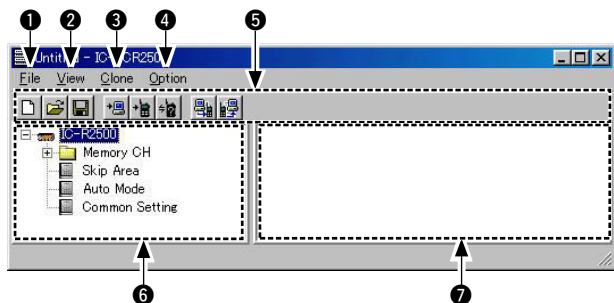
ツールバーの[Clone]アイコンをクリックすると、IC-R2500クローニングソフトウェア(右図)が起動します。



- ① Fileメニュー [File]
「新規ファイルを開く/既存ファイルを開く/保存」、「メモリーチャンネル(以下、M-CHと略記)リストの印刷」、「最近使用したファイルを開く」、「クローニングソフトウェアの終了」で使用します。
- ② Viewメニュー [View]
M-CHリストの「TSQL/DTCS」の表示/非表示、「Canceller」の表示/非表示、表示フォントサイズの変更、ツールバーの表示/非表示で使用します。
- ③ Cloneメニュー [Clone]
「IC-R2500からのデータの読み込み」、「IC-R2500へのデータ書き込み」、「クローニング情報の表示」をするときに使用します。

8 その他の機能

■ IC-R2500クローニングソフトウェアの起動と各部の名称について (つづき)



④ Optionメニュー [Option]

「IC-PCR2500のデータをIC-R2500用データに変換」、
「IC-R2500のデータをIC-PCR2500用データに変換」を
するとき 사용합니다。

⑤ ツールバー

Viewメニュー内の「Toolbar」にチェックを入れると、ツ
ールバーが表示されます。ツールバーの各アイコンをクリッ
クすると、ショートカット機能が起動します(右表参照)。

⑥ ツリービュースクリーン

編集したいアイテムをクリックすると、プログラムスクリ
ーンにその内容が表示されます。

また、フォルダーアイコンをダブルクリックすると、M-
CHアイテム、バンクチャンネルアイテムが表示されます。
各アイテムをクリックすると、プログラムスクリーンにそ
の内容が表示されます。

アイコンのショートカット機能一覧

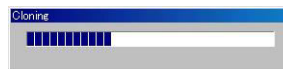
	新しいアイテムを作成する		クローニング情報を表示する
	ファイルを開く		IC-PCR2500のデータをIC-R2500用のデータに変換する
	ファイル保存する		
	データをパソコンに読み込む		IC-R2500のデータをIC-PCR2500用のデータに変換する
	データをIC-R2500に書き込む		

⑦ プログラムスクリーン

編集したいM-CHやSETモードの設定状況が表示されま
す。
設定する項目をクリックして、パソコンのキーボードから
数値を入力したり、ダブルクリックして、設定内容を選択
します。

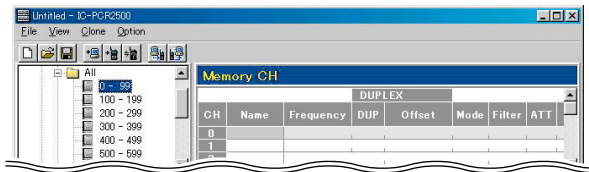
■ クローニング時の表示について

データをパソコンに読み取り時またはIC-R2500に書き込み
時は下図のプログレスウィンドウが表示され、クローニング
の進行状況を確認できます。



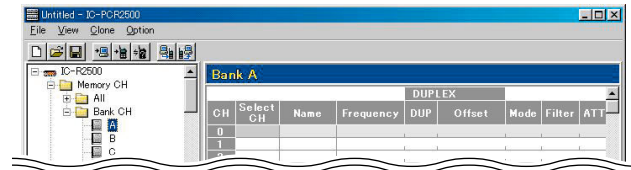
■ M-CHの編集について

詳しい編集のしかたは、IC-PCR2500取扱説明書の「**■** メモリーチャンネルエディターで編集するには」(P62)をご覧ください。



- ① ツリービュー画面内の「Memory CH」フォルダーをダブルクリックします。
- ② ツリービュー画面内の「All」フォルダーをダブルクリックして、編集するM-CHリストをクリックします。
- ③ プログラム画面に選択したM-CHリストが表示されます。編集項目をクリック(またはダブルクリック)して、M-CHを編集してください。

■ バンクチャンネルの編集について

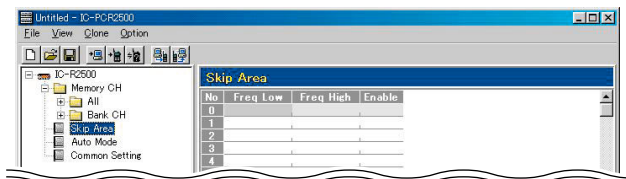


- ① ツリービュー画面内の「Memory CH」フォルダーをダブルクリックします。
- ② ツリービュー画面内の「Bank CH」フォルダーをダブルクリックして、編集するバンクチャンネルリストをクリックします。
- ③ プログラム画面に選択したバンクチャンネルリストが表示されます。編集項目をクリック(またはダブルクリック)して、バンクチャンネルを編集してください。

8 その他の機能

■ Skip Areaの編集について

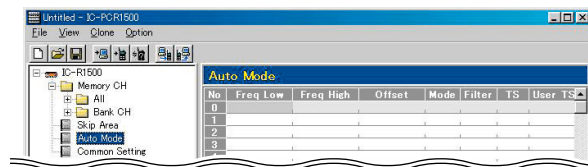
詳しい編集のしかたは、IC-PCR2500取扱説明書の「◇ プログラムスキャンの操作」(P73)をご覧ください。



- ① ツリービュー画面内の「Skip Area」をクリックします。
- ② プログラム画面に「Skip Area」リストが表示されます。編集項目をクリック(またはダブルクリック)して、Skip Areaを編集してください。

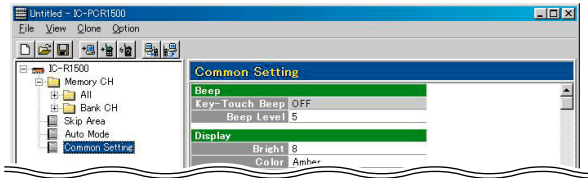
■ Auto Modeの編集について

詳しい編集のしかたは、IC-PCR2500取扱説明書の「◇ オートマッチモードを編集するには」(P44)をご覧ください。



- ① ツリービュー画面内の「Auto Mode」をクリックします。
- ② プログラム画面に「Auto Mode」リストが表示されます。編集項目をクリック(またはダブルクリック)して、Auto Modeを編集してください。

■ Common Settingの設定について



- ① ツリービュー画面内の「Common Setting」をクリックします。
プログラム画面に「Common Setting」設定項目が表示されます。
- ② 編集項目をクリック(またはダブルクリック)して、各項目を設定してください。

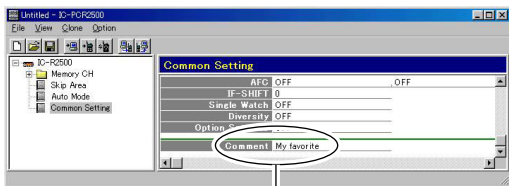
■ Common Settingの設定項目

表示	設定内容	初期設定値
Key-Touch Beep	ビープ音(操作音)の設定	ON
Beep Level	ビープ音(操作音)の音量設定	5
Bright	表示部の明瞭度設定	8
Color	表示部のバックカラーの設定	Amber
LCD Contrast	表示部のコントラストの設定	5
Memory Name	メモリーネーム表示	OFF
Edge	プログラムスキャンエッジの設定	ALL
Resume	スキャンストップタイマーの設定	T-15
Skip Area	スキップスキップエリアの設定	ON
Skip Scan	スキップスキャンの設定	ON
Link	メモリーバンクのリンク設定	OFF
ABCDEFGFG	バンクABCDEFGFGのリンク設定	ABCDFEG
HJKLMNO	バンクHJKLMNOのリンク設定	HJKLMNO
PQRTUWY	バンクPQRTUWYのリンク設定	PQRTUWY
Auto Power OFF	オートパワーオフ機能の設定	OFF
Squelch Delay	スケルチディレイ機能の設定	Short
NB	ノイズブランカー機能の設定	OFF
AGC	AGC(自動利得制御)機能の設定	Slow
AFC	AFC(自動周波数制御)機能の設定	OFF
IF-SHIFT	IFシフト機能の設定	0
Comment	クローニングコメントの設定	空白です

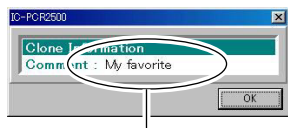
8 その他の機能


■ コメントの入力/表示について

「Common Setting」の[Comment]を入力してIC-R2500にクローニングすると、[Comment]をクローニング情報として表示できます。



16文字以内で入力して、IC-R2500にクローニングする



[Clone]メニュー内の[Information]を選択(または  アイコンをクリック)すると、「IC-PCR2500」ダイアログボックスを表示します。

ダイアログボックスの[Comment]欄に、「Common Setting」で入力したコメントが表示されます。

クローニングした後に、IC-R2500のメモリーを確認するときは、IC-PCR2500コントロールソフトウェアの[Power]アイコンをクリックして、コントロールソフトウェアの電源を“OFF”にしてからIC-R2500の電源を“ON”にください。

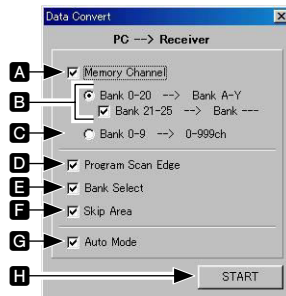
■ データのコンバートについて

● **【IC-PCR2500のデータをIC-R2500用に変換するとき】**

① [Option]メニュー内、[Convert]メニュー内の[PC→Receiver]を選択(または  アイコンをクリック)すると、「Data Convert」ウィンドウが表示されます。

② 各オプションを設定して、[START]ボタンをクリックすると、データを変換します。

※オプションは下記の**A**～**G**があります。

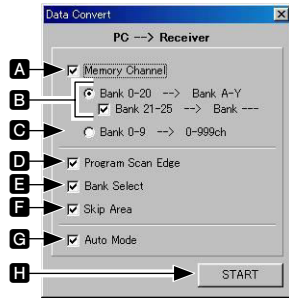


A メモリーチャンネルを変換する/変換しない


B ● バンク0～20をバンクA～Yに置き換えて変換する/変換しない

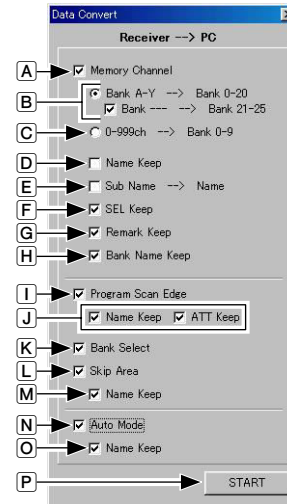
● バンク21～25はバンク設定のないチャンネルに置き換えて変換する/変換しない

※1000チャンネルを超えるチャンネルは変換されませんので、ご注意ください。



- C バンク0～9内のメモリーチャンネルを0～999のチャンネルに置き換えて変換する(バンク設定されない)/変換しない
- D プログラムスキャンエッジを変換する/変換しない
- E バンクセレクトを変換する/変換しない
- F スキップエリアを変換する/変換しない
- G オートモードを変換する/変換しない
- H 変換を開始する

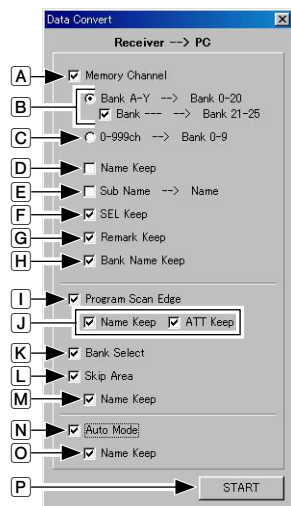
●【IC-R2500のデータをIC-PCR2500用に変換するとき】
 [Option]メニュー内、[Convert]メニュー内の[Receiver→PC]を選択(または  アイコンをクリック)すると、「Data Convert」ウィンドウが表示されます。
 各オプションを設定して、[START]ボタンをクリックすると、データを変換します。
 ※オプションは次の頁のA～Oがあります。



- A メモリーチャンネルを変換する/変換しない
- B ● バンクA～Yをバンク0～20に置き換えて変換する/変換しない
- C 0～999のチャンネルをバンク0～9に置き換えて変換する/変換しない
- D ● バンク設定のないチャンネルをバンク21～25に置き換えて変換する/変換しない
- E ※バンク設定をしていないメモリーチャンネルが500チャンネルを超える場合、それ以上のメモリーチャンネルは変換されませんので、ご注意ください。
- F
- G
- H
- I
- J
- K
- L
- M
- N
- O
- P

8 その他の機能

■ データのコンバートについて (つづき)



- D IC-R2500のメモリーネームに変換する/変換しない
- E IC-R2500サブメモリーネームをIC-PCR2500のメモリーネームに置き換えて変換する/変換しない
- F メモリスキャンのセレクト指定をIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- G リマークをIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- H バンクネームをIC-R2500のバンクネームに置き換えて変換する/変換しない

- I プログラムスキャンエッジをIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- J プログラムスキャンエッジの名前、ATTの設定をIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- K バンクセレクトをIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- L スkipエリアをIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- M スkipエリアのIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- N オートモードをIC-R2500の設定値に置き換えて変換する/変換しない
- O オートモードの名前をIC-R2500の設定名に置き換えて変換する/変換しない
- P 変換を開始する

■ SETモードの設定のしかた

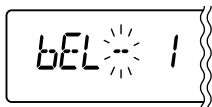
SETモードは、初期設定されている運用条件を、運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更するモードです。

◇ SETモードの操作

- ① [SET・SKIP]を短く押します。
(SETモードを表示します。)



- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押すことに、設定項目が切り替わります。(次ページ参照)



- ③ [DIAL]を回して、設定内容を選択します。




※ 続けてSETモードを設定するときは、③と④を繰り返し操作してください。

- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。

◇ メモリーバンクのリンク設定モードについて


メモリーバンクのリンクを設定するとき、次の手順でメモリーバンクのリンク設定モードにしてください。

- ① SETモードでメモリーバンクのリンク設定を“ON”(bkL - On)にします。
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を長く(約1秒)押しと、メモリーバンクのリンク設定モードに切り替わります。
- ③ [DIAL]を回して、リンクの“ON/OFF”を設定します。
- ④ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押しと、リンクするバンクを選択できます。
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押しと、セットモードを解除します。

◇ DV(デジタル音声)SETモードについて

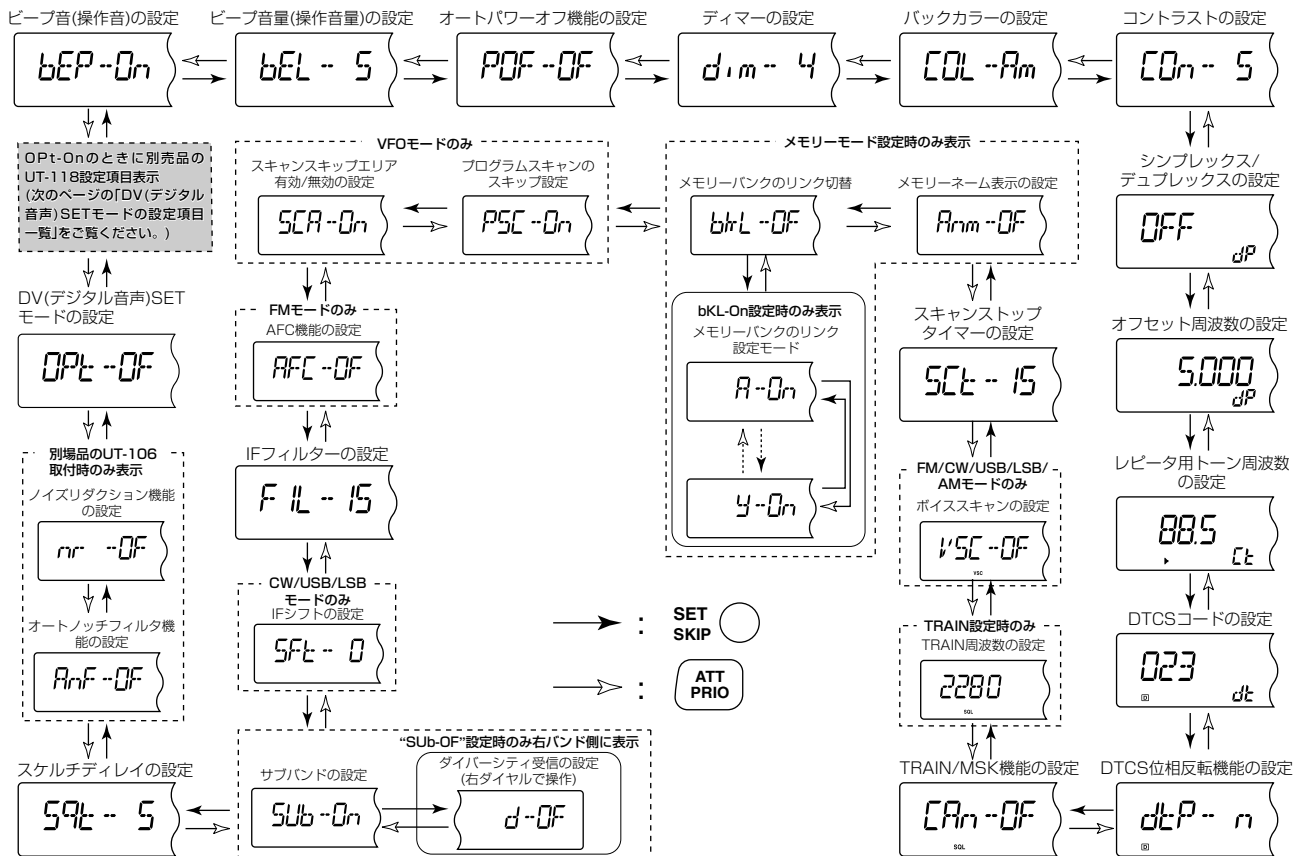
別売品のUT-118装着時、DV(デジタル音声)SETモードにする場合、次の手順で、DV(デジタル音声)SETモードにしてください。

SETモードでDV(デジタル音声)SETモードの設定を“ON”(OPt - On)にすると、DV(デジタル音声)SETモードの項目が表示されます。

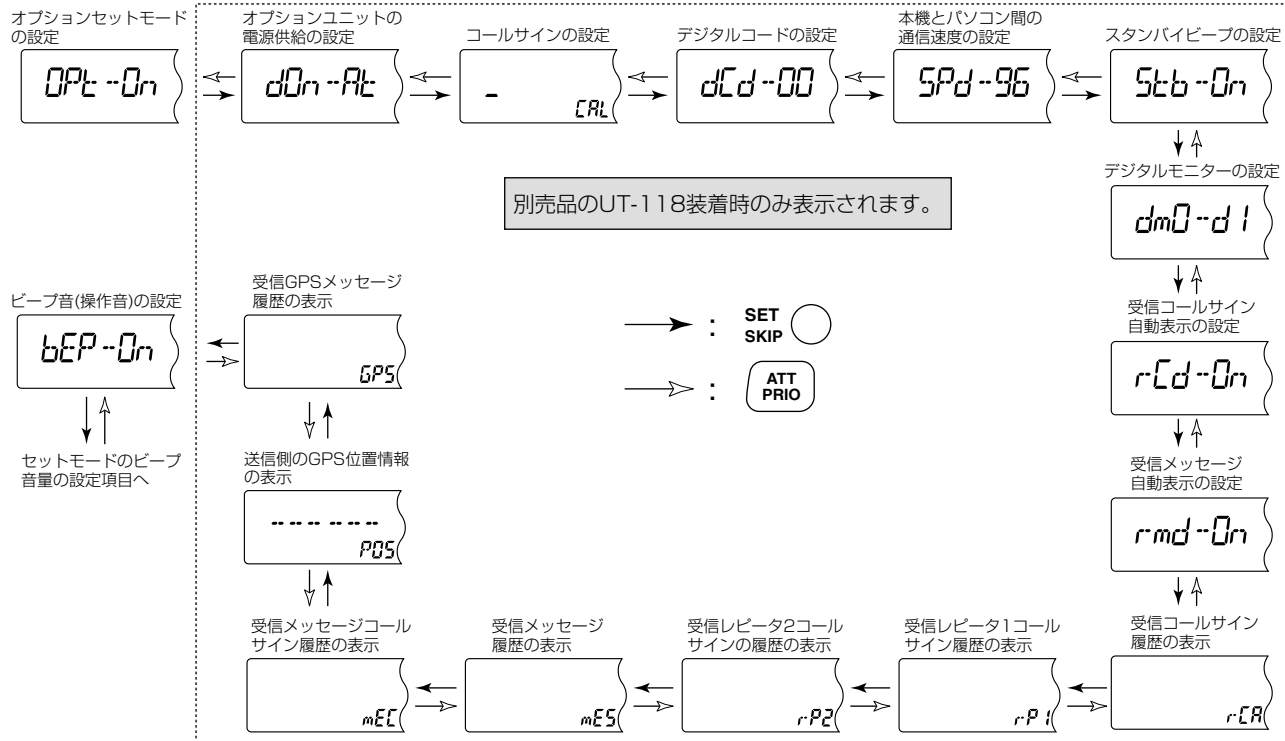
- ※ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押しと、設定項目が選択できます。
- ※ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押しと、セットモードを解除します。

9 SETモードの設定


◇ SETモードの設定項目一覧



◇ DV(デジタル音声)SETモードの設定項目一覧



9 SETモードの設定

<h3>■ SETモードの項目について</h3> <h4>◇ ビープ音(操作音)の設定</h4> <p>キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● bEP - On : ビープ音を鳴らします。 (初期設定値)● bEP - OF : ビープ音を鳴らしません。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>△ご注意 「bEP - OF」に設定しても、ポケットビープ動作時、電源ON/OFF時にはビープ音が鳴ります。</p></div>	<h4>◇ オートパワーオフ機能の設定</h4> <p>自動的に電源を“OFF”にするオートパワーオフ機能を設定します。待ち受け状態(何も操作しない状態)が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。</p> <ul style="list-style-type: none">● POF - OF : オートパワーオフ機能を無効にします。(初期設定値)● POF - 30 : 30分後に電源を切ります。● POF - 1H : 1時間後に電源を切ります。● POF - 2H : 2時間後に電源を切ります。 <p>※ オートパワーオフ機能を設定すると、ディスプレイに  表示が点灯します。</p>
<h4>◇ ビープ音(操作音)の音量設定</h4> <p>ビープ音の音量を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● bEL - 5 : 1(小さい)~9(大きい)の中から選択します。 (初期設定値 : bEL - 5) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>△ご注意 ビープ音の音量を変えると、ポケットビープの呼び出し音、電源ON/OFF時のビープ音、各機能/項目の操作時のビープ音も変わります。特にビープ音を大きくしているときはご注意ください。</p></div>	<h4>◇ ディマーの設定</h4> <p>ディスプレイの明るさを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● dim - 4 : dim - 1(暗い)~dim - 4(明るい)の中から選択します。 (初期設定値 : dim - 4)

◇ バックカラーの設定

ディスプレイのバックカラーを設定します。

- COL - Am : ディスプレイのバックカラーを橙色にします。
(初期設定値)
- COL - Gr : ディスプレイのバックカラーを緑色にします。

COL --Am

COL --Gr

◇ シンプレックス/デュプレックスの設定

シンプレックス/デュプレックスを設定します。

- OFF : シンプレックスモードにします。
(初期設定値)
- dUP- : デュプレックスモード(マイナス方向にシフト)にします。
- dUP+ : デュプレックスモード(プラス方向にシフト)にします。

OFF_{dP}dUP--_{dP}

◇ コントラストの設定

ディスプレイのコントラストを設定します。

- CO_n - 5 : CO_n - 1(薄い)~CO_n - 9(濃い)の中から選択します。
(初期設定値 : CO_n - 5)

CO_n -- 5CO_n -- 9

◇ オフセット周波数の設定

デュプレックスモード時のオフセット周波数を設定します。

- 5.000 : 0.000~1000.000MHzの中から選択します。
(初期設定値はバンドによって異なります。)

0.000_{dP}5.000_{dP}

9 SETモードの設定

◇ トーンスケルチ用トーン周波数の設定

トーンスケルチ、ポケットビープで使用するトーン周波数を設定します。

- **88.5** : 67.0～254.1Hz(51波)の中から選択します。
(初期設定値 : 88.5Hz)

88.5
、 [t]

254.1
、 [t]

67.0	88.5	118.8	159.8	186.2	225.7
69.3	91.5	123.0	162.2	189.9	229.1
71.0	94.8	127.3	165.5	192.8	233.6
71.9	97.4	131.8	167.9	196.6	241.8
74.4	100.0	136.5	171.3	199.5	250.3
77.0	103.5	141.3	173.8	203.5	254.1
79.7	107.2	146.2	177.3	206.5	(単位 : Hz)
82.5	110.9	151.4	179.9	210.7	
85.4	114.8	156.7	183.5	218.1	

◇ DTCSコードの設定

コードスケルチ、DTCSビープで使用するコードを設定します。

- **023** : 023～754(104波)の中から選択します。
(初期設定値 : 023)

023
[t]

023	051	114	143	174	245	266	332	411	452	506	612	703
025	053	115	145	205	246	271	343	412	454	516	624	712
026	054	116	152	212	251	274	346	413	455	523	627	723
031	065	122	155	223	252	306	351	423	462	526	631	731
032	071	125	156	225	255	311	356	431	464	532	632	732
036	072	131	162	226	261	315	364	432	465	546	654	734
043	073	132	165	243	263	325	365	445	466	565	662	743
047	074	134	172	244	265	331	371	446	503	606	664	754

◇ DTCS極性反転機能の設定

受信側でコードの検出の極性を設定します。

- dtP - n : 反転しません。(初期設定値)
- dtP - r : 反転します。

dtP - n
[t]

dtP - r
[t]

◇ TRAIN/MSK機能の設定

TRAIN(空線キャンセラー)とMSK制御信号の検出機能を選択します。

- CA n - OF : TRAIN/MSK機能ともに“OFF”にします。(初期設定値)
- CA n - tr : 鉄道無線で通話を行っていない周波数で聞こえる空線信号を検出することができます。
- CA n - mS : MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出することができます。

CA n - OF
[t]

CA n - tr
[t]

CA n - mS
[t]

◇ TRAIN周波数の設定

空線信号の周波数を可変することができます。

- **2280** : 300～3000Hzの範囲を、10Hzステップで設定できます。
(初期設定値：2280Hz)





※ この項目は、TRAIN/MSK機能(SQL表示点灯)を設定したときに、「CAn-TR」モードにしなければ表示されません。

◇ VSC(ボイススケルチコントロール)機能の設定

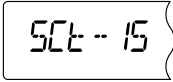
VSC(ボイススケルチコントロール)機能の“ON/OFF”を設定します。

- **VSC - OF** : VSC(ボイススケルチコントロール)機能を“OFF”にする。(初期設定値)
- **VSC - On** : VSC(ボイススケルチコントロール)機能を“ON”にする。

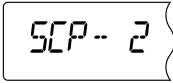



◇ スキャンストップタイマーの設定

スキャン動作中に信号を受信して一時停止したあと、再スタートするまでの条件を設定します。



- スキャンストップタイマーの条件を下表の中から選択します。
(初期設定値：Sct - 15)

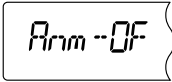
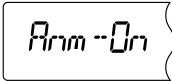


表示	動作内容
Sct - 5	一時停止してから5秒後に再スタートします。
Sct - 10	一時停止してから10秒後に再スタートします。
Sct - 15	一時停止してから15秒後に再スタートします。
SCP - 2	信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。

◇ メモリーネーム表示の設定

M-CHに付けたメモリーネームの表示機能を設定します。

- **Anm - OF** : メモリーネームを表示しない。(初期設定値)
- **Anm - On** : 周波数表示部にメモリーネームを表示します。

※ この項目は、メモリーモードのときにSETモードにしなければ表示されません。

9 SETモードの設定

◇ メモリーバンクのリンク設定

メモリーバンクのリンク機能を設定します。
リンク機能によりバンクスキャン選択時、編集しているすべてのメモリーバンクをスキャンします。

- **bkL - OF** :メモリーバンクをリンクしません。(初期設定値)
- **bkL - On** :メモリーバンクをリンクします。

bkL -OF

bkL -On

※ この項目は、メモリーモードのときにSETモードにしなければ表示されません。

●各バンクのリンクを設定する(メモリーバンクリンク設定モード)

※各バンクのリンクを設定するには、メモリーバンクのリンク設定モード(☞P53)にしてください。

- ① **bkL - On**(リンクする)を選択したときは、[SET・SKIP]または[ATT・PRIO]を短く押して、リンクするバンクを選択します。
- ② [DIAL]を回して、リンクの“ON/OFF”を選択します。
- **A - On/OFF** :バンク“**A**”のリンクを選択します。
 - **b - On/OFF** :バンク“**B**”のリンクを選択します。
 - **C - On/OFF** :バンク“**C**”のリンクを選択します。
 - **d - On/OFF** :バンク“**D**”のリンクを選択します。
 - **E - On/OFF** :バンク“**E**”のリンクを選択します。
 - **F - On/OFF** :バンク“**F**”のリンクを選択します。

●各バンクのリンクを設定する(メモリーバンクリンク設定モード)(つづき)

- **G - On/OFF** :バンク“**G**”のリンクを選択します。
- **H - On/OFF** :バンク“**H**”のリンクを選択します。
- **J - On/OFF** :バンク“**J**”のリンクを選択します。
- **k - On/OFF** :バンク“**K**”のリンクを選択します。
- **L - On/OFF** :バンク“**L**”のリンクを選択します。
- **m - On/OFF** :バンク“**M**”のリンクを選択します。
- **n - On/OFF** :バンク“**N**”のリンクを選択します。
- **o - On/OFF** :バンク“**O**”のリンクを選択します。
- **P - On/OFF** :バンク“**P**”のリンクを選択します。
- **q - On/OFF** :バンク“**Q**”のリンクを選択します。
- **r - On/OFF** :バンク“**R**”のリンクを選択します。
- **t - On/OFF** :バンク“**T**”のリンクを選択します。
- **U - On/OFF** :バンク“**U**”のリンクを選択します。
- **W - On/OFF** :バンク“**W**”のリンクを選択します。
- **y - On/OFF** :バンク“**Y**”のリンクを選択します。

◇ プログラムスキャンスキップの設定

VFOスキャン、プログラムスキャン時に“**P_{SKIP}**”が指定された周波数をスキップするかしらないかを設定します。

- **PSC - OF** : “**P_{SKIP}**”が指定された周波数をスキップします。
- **PSC - On** : “**P_{SKIP}**”が指定された周波数をスキップしません。(初期設定値)

PSC -On

PSC -OF

◇ スキャンスキップエリアの有効/無効の設定

クローニングソフトウェアで、スキャンスキップエリアをクローニングしたとき、スキャン時にクローニングした内容を有効にするか無効にするかを設定します。

※この項目は、クローニングソフトウェアでスキャンスキップエリアをクローニングしたときだけ表示されます。

- SCA - On : スキャン時にクローニングした内容を有効にします。
(初期設定値)

SCA--On

- SCA - OF : スキャン時にクローニングした内容を無効にします。

SCA--OF

◇ AFC(自動周波数制御)機能の設定

AFC(自動周波数制御)機能の“ON/OFF”を設定します。

- AFC - OF : AFC(自動周波数制御)機能を“OFF”にする。(初期設定値)
- AFC - On : AFC(自動周波数制御)機能を“ON”にする。

AFC--OF

AFC--On

◇ IFフィルター通過帯域幅の設定

IFフィルターの通過帯域幅を設定します。設定しているモードによって、選択できる通過帯域幅が異なります。

- FIL 3 : 3kHz、6kHz、15kHz、50kHz、230kHzの中から通過帯域幅を選択します。
(初期設定値は設定モードによって異なります。)

FIL--15

◇ IFシフト機能の設定

IFフィルターの通過帯域幅を上側、または下側に移動し、近接波からの混信を除去します。

※この項目は、CW/LSB/USBモードのときだけ表示されます。

- SFt 0 : -25~+25の範囲で設定できます。
(初期設定値 : SFt 0)

SFt 0


SFt +25

9 SETモードの設定


◇ SUBバンドの設定

右バンドがSUBバンドのとき、SUBバンドの“ON/OFF”を設定します。

- **Sub - On** : SUBバンドをONにします。
(初期設定値)
- **Sub - OF** : SUBバンドをOFFにします。



SUB -- OF

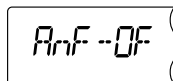


SUB -- On

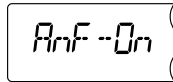
◇ ANF(Automatic Notch Filter)機能の設定

別売品のDSPユニット(UT-106)装着時、SSB、FM、AMモード受信中、音声信号にビート信号やCWまたはRTTYによる混信を受けると、混信信号を自動判別して減衰します。(※P67)

- **AnF - OF** : ANF(オートノッチ)機能を“OFF”にする。(初期設定値)
- **AnF - On** : ANF(オートノッチ)機能を“ON”にする。



AnF -- OF

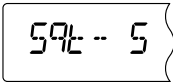


AnF -- On

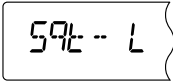
◇ スケルチディレイの設定

受信時のスケルチディレイ(遅延)制御時間を設定します。

- **Sqt - L** : スケルチディレイ(遅延)時間が長くなります。
- **Sqt - S** : スケルチディレイ(遅延)時間が短くなります。
(初期設定値)



Sqt -- S

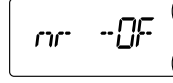


Sqt -- L

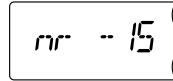
◇ NR(Noise Reduction)機能の設定

別売品のDSPユニット(UT-106)装着時、受信したアナログ信号をデジタル処理し、ノイズ成分と信号成分を分離して信号成分だけを取り出します。(※P67)

- **nr - OF** : AFC(自動周波数制御)機能を“OFF”にする。(初期設定値)
- **nr - 1** : 1~15の範囲でノイズ除去レベルが設定できます。



nr -- OF



nr -- 15

別売品のUT-118装着時のみ表示されます。

◇ DV(デジタル音声)SETモードの設定

別売品のデジタルユニット(UT-118)装着時、DV(デジタル音声)SETモードの設定項目の表示/非表示を設定します。

- Opt - ON : DV(デジタル音声)SETモードの設定項目を表示します。
- Opt - OFF : DV(デジタル音声)SETモードの設定項目を表示しません。
(初期設定値)

Opt --OF

Opt --On

◇ コールサインの設定

自局のコールサインを設定します。
8文字まで設定できます。

- [RL]

AAAAAA [RL]

◇ オプションユニットの電源供給の設定

別売品のデジタルユニット(UT-118)を装着したとき、本体からの電源供給を設定します。

- dOn - At : DV(デジタル音声)モードが選択されたときだけ、デジタルユニットに電源が供給されません。
(初期設定値)
- dOn - ON : DV(デジタル音声)モードの選択に関わらず、デジタルユニットに電源が供給されます。

dOn --At

dOn --On

◇ デジタルコードの設定

デジタルコードスケルチで使用するデジタルコードを設定します。

- dCd - 00 : 00~99(100コード)の中から選択します。
(初期設定値 : 00)

dCd --00

dCd --99

9 SETモードの設定

別売品のUT-118装着時のみ表示されます。

◇ 本機とパソコン間の通信速度の設定

本機とパソコン間のデータ転送速度を設定します。

- SPd - 96 : 9600bpsに設定します。
(初期設定値)
- SPd - 48 : 4800bpsに設定します。

SPd-96

SPd-48

◇ デジタルモニターの設定

DV(デジタル音声)モードで、モニター機能を動作させたときの運用モードを選択します。

- dmO - dl : DVモードでモニターします(デジタル)。
(初期設定値)
- dmO - An : FMモードでモニターします(アナログ)。

dmO-dl

dmO-An

◇ スタンバイビープの設定

自局に対して通信(通話)の終わりに鳴らすビープ音を設定します。

- Stb - ON : 通信の終わりにビープ音を鳴らします。
(初期設定値)
- Stb - OF : 通信の終わりにビープ音を鳴らしません。

Stb-ON

Stb-OF

◇ 受信コールサイン自動表示の設定

信号を受信したときに、受信した相手局のコールサインを表示部に自動で表示するか、しないかを設定します。

- rCd - ON : 受信したコールサインを表示部に自動で表示します。
(初期設定値)
- rCd - OF : 受信したコールサインを表示部に自動で表示しません。

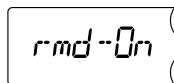
rCd-ON

rCd-OF

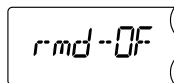
◇ 受信メッセージ自動表示の設定

ショートメッセージの含まれている信号を受信したときに、受信したショートメッセージを表示部に自動で表示するか、しないかを設定します。

- rmd - ON : 受信したショートメッセージを表示部に自動で表示します。
(初期設定値)



- rmd - OF : 受信したショートメッセージを表示部に自動で表示しません。



◇ 受信レピータ1コールサイン履歴の表示

受信したレピータ1のコールサインの履歴を表示します。

[MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]
を短く押すと、履歴を確認できます。



◇ 受信コールサイン履歴の表示

受信した相手局のコールサインの履歴を表示します。

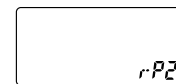
[MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]
を短く押すと、履歴を確認できます。



◇ 受信レピータ2コールサイン履歴の表示

受信したレピータ2のコールサインの履歴を表示します。

[MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]
を短く押すと、履歴を確認できます。



9 SETモードの設定

別売品のUT-118装着時のみ表示されます。

◇ 受信メッセージ履歴の表示

受信したショートメッセージの履歴を表示します。

[MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]
を短く押すと、履歴を確認できます。

TEXT MS
HELLO
mES

mES

◇ 送信側のGPSの位置情報の表示

送信側のGPSレシーバーを利用した位置情報を受信したとき、相手局の位置情報を表示します。

[MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]
を短く押すと、位置情報が切り替わります。

.....
POS

◇ 受信メッセージのコールサイン履歴の表示

ショートメッセージを送信した差出人のコールサインを表示します。

[MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]
を短く押すと、履歴を確認できます。

mES

◇ 受信GPSメッセージ履歴の表示

送信側のGPSレシーバーを利用した位置情報を受信したとき、その信号にGPSメッセージが含まれていた場合、メッセージを表示します。

[MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]
を短く押すと、履歴を確認できます。

GPS

■ UT-106の取り付け

別売品のUT-106はDSP(Digital Signal Processor)によるデジタル信号処理により、受信時のノイズや混信除去などに威力を発揮します。

このユニットを装着すると、次の機能をご使用いただけます。

※ ANF(オートノッチフィルター)機能(※P62、68)

※ NR(ノイズリダクション)機能(※P62、68)

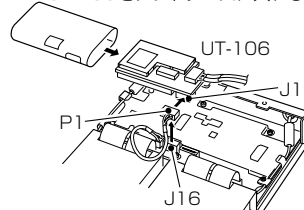
● UT-106の取り付け方

[ご注意]

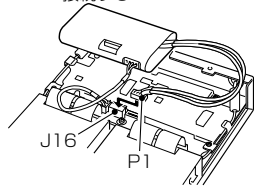
カバーを外す前に、コントロールソフトや本体の電源を切り、ACアダプターのコードや他の接続コードをはずしてから作業にかかってください。

- ① 分解手順(※P43)にしたがって、カバーをはずします。
- ② 付属のソフトケースをUT-106に取り付けます。
- ③ LOGICユニットのJ16に接続しているコネクタP1(4ピン)をはずし、UT-106のJ1に接続します。
- ④ UT-106からの接続コネクタP1(4ピン)をLOGICユニットのJ16に接続します。

UT-106をソフトケースに入れる



UT-106をIC-R2500に接続する

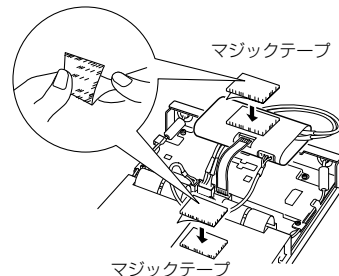
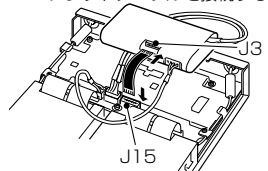


- ⑤ 付属のフラットケーブルをUT-106のJ3、LOGICユニットのJ15にそれぞれ接続します。

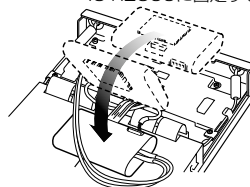
※電極(接点側)の向きを確認して接続してください。

- ⑥ 付属のマジックテープの薄紙をはがし、UT-106(ソフトケースに入った状態)の表面、MAINユニット(シールドケース上)にそれぞれ貼り付け、MAINユニットに固定します。

フラットケーブルを接続する



マジックテープでUT-106をIC-R2500に固定する



- ⑦ カバーに接続コードを接続し、カバーを元どおりに取り付けます。

10 UT-106(別売品DSPユニット)について

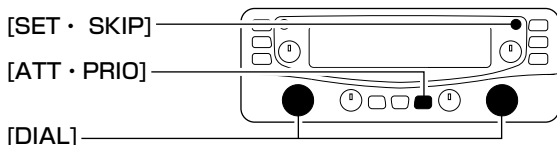
■ANF(Automatic Notch Filter)機能について

SSB、FM、AMモード受信中、音声信号にビート信号やCWまたはRTTYによる混信を受けると、混信信号を自動判別して減衰します。

- ① [SET・SKIP]を短く押してSETモードにします。
(SETモードを表示します。)
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]をして、「ANF(Automatic Notch Filter)機能の設定」を選択します。
- ③ [DIAL]を回すと、ANF機能が“ON/OFF”します。



- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。



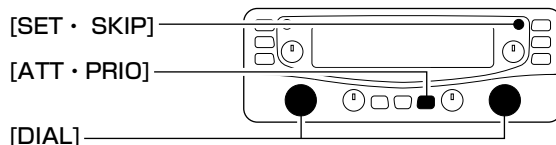
■NR(Noise Reduction)機能について

受信したアナログ信号をデジタル処理し、ノイズ成分と信号成分を分離して信号成分だけを取り出します。

- ① [SET・SKIP]を短く押してSETモードにします。
(SETモードを表示します。)
- ② [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]をして、「NR(Noise Reduction)機能の設定」を選択します。
- ③ [DIAL]を回すと、NR機能が“ON/OFF”します。
※0～15の範囲でノイズ除去レベルが設定できます。



- ④ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、SETモードを解除します。



■ デジタル音声ユニットの取り付け


《ご注意》 DV(デジタル音声)モードを受信するには、別売品のデジタル音声ユニット(UT-118)が必要です。DVモードでは、ショートメッセージの受信、送信局がGPSを接続している場合、送信局の位置情報の受信などがお楽しみいただけます。

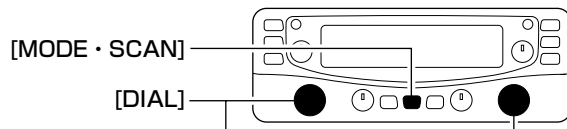
◇ デジタル音声ユニットを取り付ける

P78にしたがって、別売品のデジタル音声ユニット(UT-118)を接続してください。

■ DV(デジタル音声)モードの設定

受信モードボタンをクリックして、受信モードをDV(デジタル音声)モードに設定します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“**MAIN**”が点灯します。
- ② [MODE・SCAN]ボタンを短く押して、受信モード設定モードにします。
※[MODE・SCAN]ボタンを短く押すことに、受信モード設定モードが“ON/OFF”します。
- ③ [DIAL]を回して、受信モード設定モードをDVに選択します。
※右バンドでは、DVモードを選択いただけませんので、ご注意ください。
- ④ [PWR・]ボタン以外のボタンを短く押すと、受信モードをDV(デジタル音声モード)に決定し、受信モード設定モードを解除します。
※表示部に“**DIGITAL**”が表示されます。

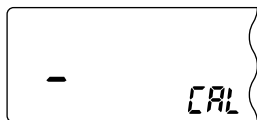



11 DV(デジタル音声)モードについて

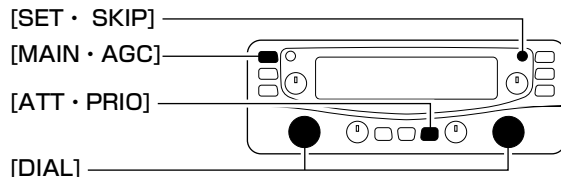
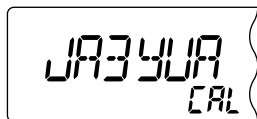
■ 自局のコールサインを設定する


DV(デジタル音声)モードで自局のコールサインを入力すると、デジタルコールサインスケルチをお使いいただけます。

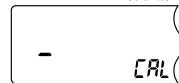
- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「CAL(自局のコールサインの設定)」を選択します。




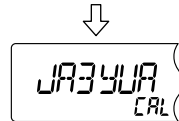
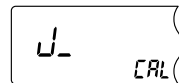
- ④ [DIAL]を回して、文字を選択します。
- ⑤ [MODE・SCAN]または[ATT・PRIO]を短く押して、文字を入れる桁を選びます。
※[MODE・SCAN]または[ATT・PRIO]を短く押すと、桁がスクロールします。
- ⑥ 前記④～⑤を繰り返して、8文字以内で自局のコールサインを入れます。
- ⑦ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



SET SKIP  を数回押して、
コールサインの設定画面に入る



 を回して文字を選択し、
MONI (TTECA) か ATT (PRIO) で入力位置を決定する

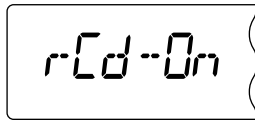


※桁をスクロールするときには MONI (TTECA)、ATT (PRIO) を短く押す

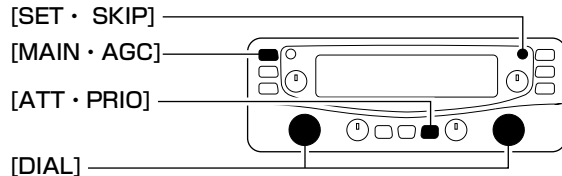
■ 受信信号のコールサインを自動表示する

DV(デジタル音声)モードで受信した信号のコールサインを表示部に自動表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「rCd(受信信号のコールサイン自動表示の設定)」を選択します。



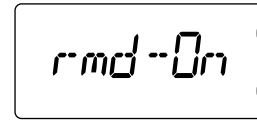
- ④ [DIAL]を回して、“rCd-On”に設定します。
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



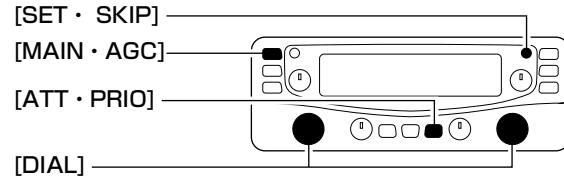
■ 受信メッセージを自動表示する

DV(デジタル音声)モードでメッセージを受信したとき、メッセージを表示部に自動表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「rmd(受信信号のコールサイン自動表示の設定)」を選択します。



- ④ [DIAL]を回して、“rmd-On”に設定します。
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。

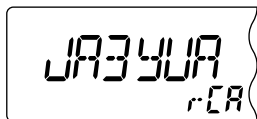


11 DV(デジタル音声)モードについて

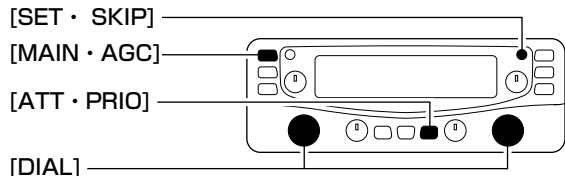
■ 受信コールサイン履歴を表示する

DV(デジタル音声)モードで受信したコールサインの履歴を表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「rCA(受信コールサイン履歴の表示)」を選択します。
- ④ [MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]を短く押すと、受信したコールサインが切り替わります。



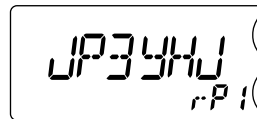
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



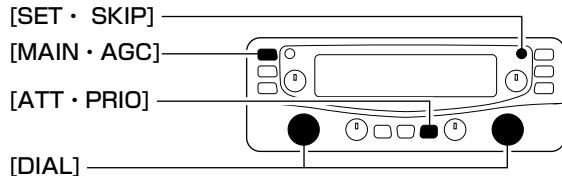
■ 受信レピータ1のコールサイン履歴を表示する

DV(デジタル音声)モードで受信したレピータ1のコールサインの履歴を表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「rP1(受信コールサイン履歴の表示)」を選択します。
- ④ [MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]を短く押すと、受信したレピータ1のコールサインが切り替わります。



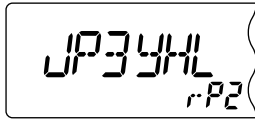
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



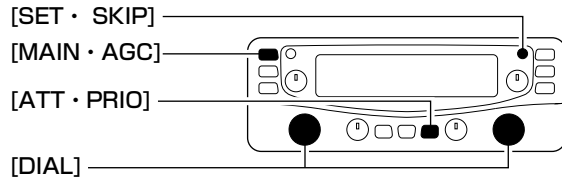
■ 受信レピータ2のコールサイン履歴を表示する

DV(デジタル音声)モードで受信したレピータ2のコールサインの履歴を表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「rP2(受信コールサイン履歴の表示)」を選択します。
- ④ [MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]を短く押すと、受信したレピータ2のコールサインが切り替わります。



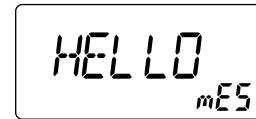
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



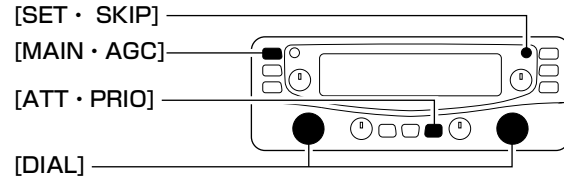
■ 受信メッセージの履歴を表示する

DV(デジタル音声)モードで受信したメッセージの履歴を表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「mES(受信メッセージ履歴の表示)」を選択します。
- ④ [MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]を短く押すと、受信したメッセージが切り替わります。



- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。

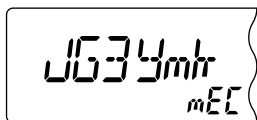


11 DV(デジタル音声)モードについて

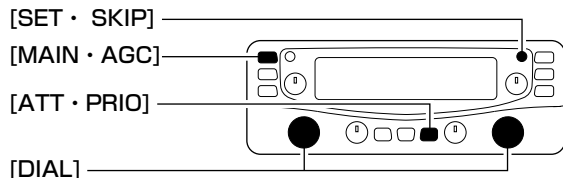
■ 受信メッセージのコールサイン履歴を表示する

DV(デジタル音声)モードで受信した受信メッセージのコールサインの履歴を表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「mEC(受信コールサイン履歴の表示)」を選択します。
- ④ [MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]を短く押すと、受信したレピータ2のコールサインが切り替わります。



- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



■ 送信側のGPS位置情報を表示する

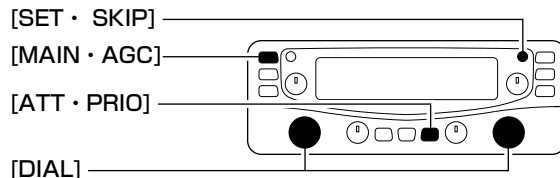
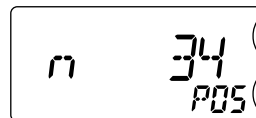
DV(デジタル音声)モードで受信した送信側のGPS*位置情報を表示します。


*Global Positioning System(全地球測位システム)の略。

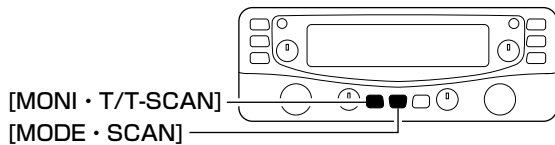
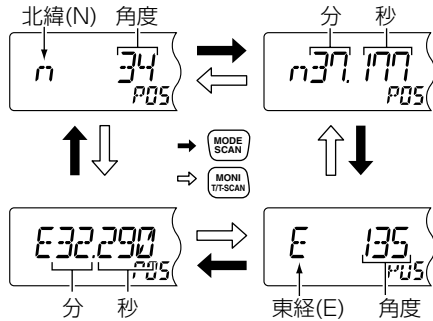
【ご注意】

この機能は、送信局にGPS受信機が接続されている場合のみ機能します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「POS(送信局の位置情報の表示)」を選択します。



- ④ [MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]を短く押すと、位置情報が切り替わります。
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



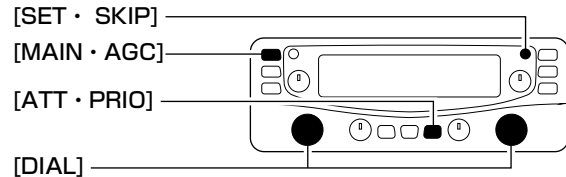
■ 受信GPSメッセージの履歴を表示する

DV(デジタル音声)モードで受信した送信側のGPSメッセージ履歴を表示します。

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ③ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「GPS(受信メッセージ履歴の表示)」を選択します。
- ④ [MONI・T/T-SCAN]、[MODE・SCAN]を短く押すと、受信したGPSメッセージが切り替わります。



- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。



11 DV(デジタル音声)モードについて

■ デジタルコールサインスケルチの使いかた

デジタルコールサインスケルチ機能は、特定のコールサインを含んだ信号をDV(デジタル音声)モードで受信するのに便利な機能です。


設定したコールサインと同じコールサインを含んだ信号を受信したときだけ、スケルチが開き受信できます。

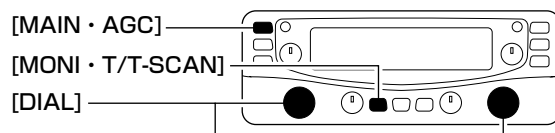
◇ コールサインを設定する

P70の「■ 自局のコールサインを設定する」を参照して、コールサインを設定してください。

◇ デジタルコールサインスケルチ機能を設定する

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② P69の「■ DV(デジタル音声)モードの設定」を参照して、DVモードに設定します。
- ③ [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押して、デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能設定モードにします。
- ④ [DIAL]を回して、下記からデジタルコールサインスケルチ機能を設定します。
 - “CSqL”(デジタルコールサインスケルチ：表示部に“▶”が点灯)
 - “CSqL”(デジタルコールサインスケルチによるポケットビープ：表示部に“(●) ▶”が点灯)

- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能設定モードを解除します。



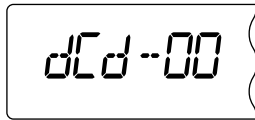
■ デジタルコードスケルチの使いかた

デジタルコールサインスケルチ機能は、特定のデジタルコードを含んだ信号をDV(デジタル音声)モードで受信するのに便利な機能です。

設定したデジタルコードと同じコードを含んだ信号を受信したときだけ、スケルチが開き受信できます。

◇ デジタルコードを設定する

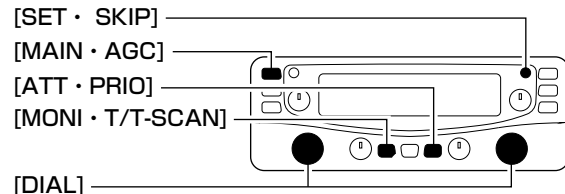
- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② P69の「**■** DV(デジタル音声)モードの設定」を参照して、DVモードに設定します。
- ③ [SET・SKIP]ボタンを短く押して、SETモードにします。
- ④ [SET・SKIP]または[ATT・PRIO]ボタンを短く押して、「dCd(デジタルコードの設定)」を選択します。



- ⑤ [DIAL]を回して、デジタルコードを設定します。
- ⑥ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、セットモードを解除します。

◇ デジタルコードスケルチ機能を設定する

- ① 左バンドが有効になっていないとき、[MAIN・AGC]ボタンを短く押して、左バンドを有効にします。
※左バンドの表示部に“MAIN”が点灯します。
- ② P69の「**■** DV(デジタル音声)モードの設定」を参照して、DVモードに設定します。
- ③ [MONI・T/T-SCAN]を長く(約1秒)押して、デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能設定モードにします。
- ④ [DIAL]を回して、下記からデジタルコードスケルチ機能を設定します。
 - “dSqL”(デジタルコードスケルチ：表示部に“D”が点灯)
 - “dSqL”(デジタルコードスケルチによるポケットビープ：表示部に“D((●))”が点灯)
- ⑤ [SET・SKIP]、[ATT・PRIO]、[PWR・]以外のボタンを短く押すと、デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能設定モードを解除します。



12 ご参考に

■別売品UT-118/UT-108の取り付けかた

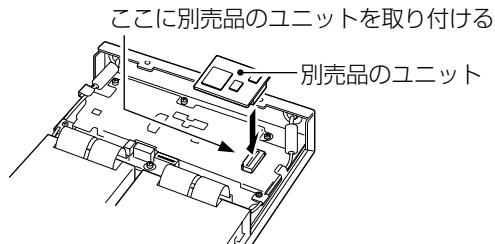
別売品のUT-118(デジタルユニット)を取り付けると、DV(デジタル音声)モードの通信を受信できます。

また、別売品のUT-108(DTMFデコーダーユニット)を取り付けると、SUB側でDTMF機能をお使いいただけます。

[ご注意]

- カバーをはずす前に、コントロールソフトと本体の電源を切り、ACアダプターのコードと他の接続コードをはずしてから作業にかかってください。
- UT-118、UT-108のどちらか一方のみ取り付けできません。

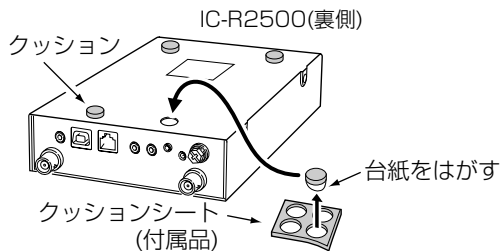
- ① 分解手順(P43)にしたがって、カバーをはずします。
- ② 接続コード(2箇所)をはずします。
- ③ 下図のように別売品のユニットを取り付けます。
- ④ 接続コードを接続し、カバーを元どおりに取り付けます。



■付属品の取り付けかた

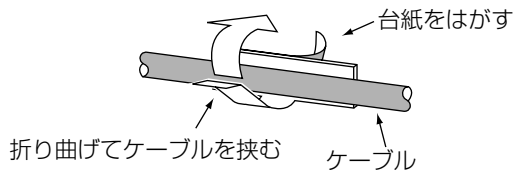
◇クッションの取り付けかた

クッションは、下記のように本製品の底面に貼り付けます。
※丸く型抜きされたクッションが4個、粘着面を保護する台紙の上についています。



◇ワイヤーステッカーの取り付けかた

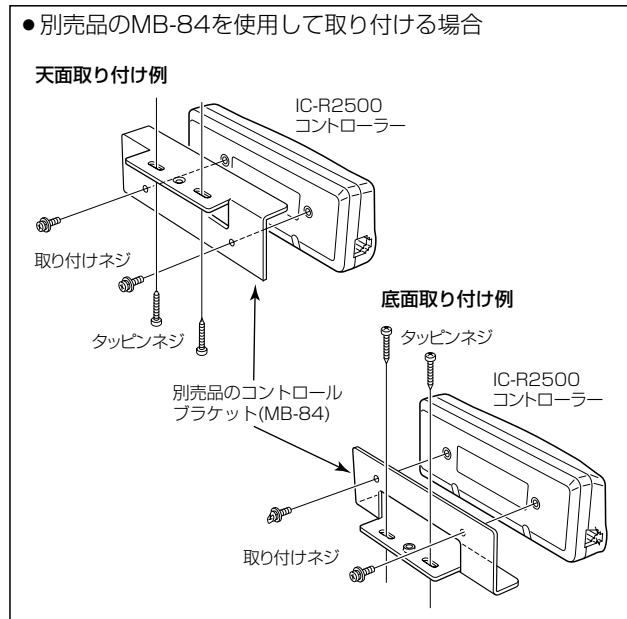
ワイヤーステッカーはアンテナケーブルなどを固定するときにお使いになると便利です。粘着面を保護する台紙をはがしてお使いください。



■コントローラーの設置について

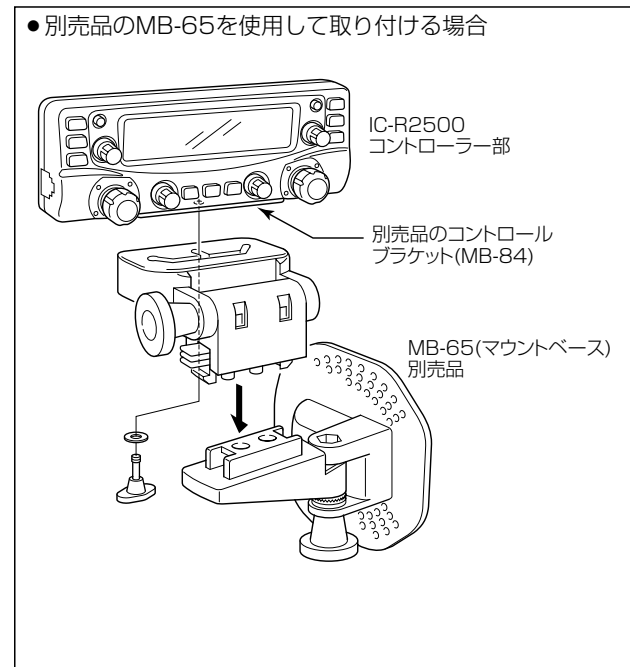
別売品のMB-84(コントローラーブラケット)を利用して、お好みの場所に設置できます。

コントローラーブラケットに付属の取り付けネジを使用して、コントローラーとブラケットを取り付け、お好みの位置に固定します。



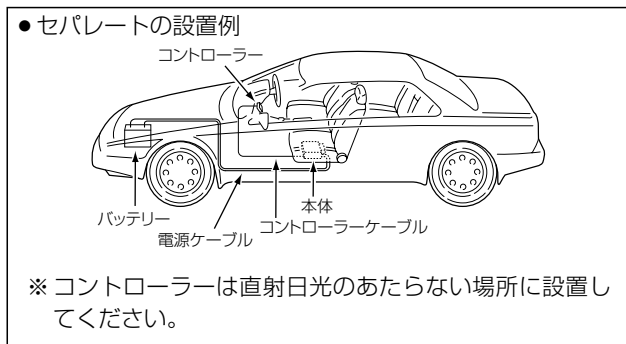
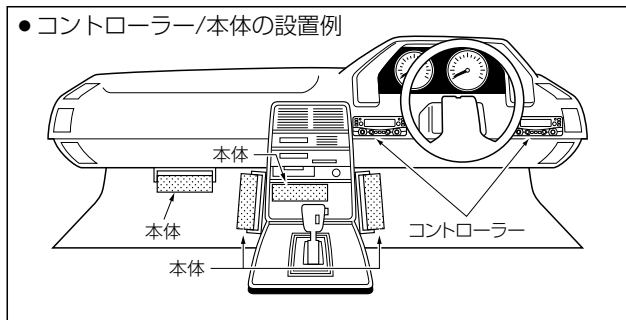
別売品のMB-65(マウントベース)を使用すれば車内にも手軽に設置できます。

MB-65の取り付けかたは、MB-65に添付の取扱説明書をご覧ください。



12 ご参考に

■コントローラーの設置について (つづき)



△ 注意

- 安全運転に支障のない場所に設置してください。
- 直射日光のあたる場所、ヒーターやクーラーの吹き出し口など温度変化の激しい場所へ設置しないでください。
- 本装置の上に物を乗せたり、本装置をふみつけたりしない場所へ設置してください。
- 「モバイル運用時のご注意」(viiiページ)も合わせてご覧ください。

■故障かな？と思ったら

下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社各営業所のカスタマーサービス担当まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	処 置	参照
●電源が入らない	◎ACアダプターが本製品に接続されていない ◎ACアダプターをパソコンなどの電源と連動したコンセントに接続している ◎別売品CP-12Lのヒューズが切れている	●ACアダプターおよびDCプラグの接続を確認する ●本製品のACアダプターを壁などのコンセントに直接接続する ●CP-12Lのヒューズを交換する	P1 P1 P42
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎イヤホンを接続している	●[VOL]を調整して、音量を設定しなおす ●[EXT SP]ジャックにプラグが接続されていないかを点検する	P9 P8
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎アンテナの向きが悪い ◎アッテネーターが“ON”になっている	●アンテナをよく聞こえる方向に向ける ●アッテネーターを“OFF”にする	P1 P12
●プログラムスキャンが動作しない	◎PROGRAM-CHの“Freq Low”と“Freq High”に同じ周波数書き込まれている ◎スケルチが開いている	●“Freq Low”と“Freq High”に違う周波数を書き込む ●スケルチレベルを調整する	P29 P9
●メモリスキャンが動作しない	◎M-CHに2CH以上書き込まれていない ◎スケルチが開いていない	●2CH以上をM-CHに書き込む ●スケルチレベルを調整する	P30 P9
●外部電源を使用すると動作しない	◎外部電源の保護回路により、電源が正常に供給されていない	●保護回路内蔵型の外部電源を使用する場合、電流の容量に余裕のある外部電源を使用する。	—
●ダイバーシティ受信できない	◎アンテナが2本接続されていない ◎FMモードでスケルチがオープンになっている	●アンテナを2本接続する ●スケルチをスレッシュホールドの状態に設定する	P16 P16

12 ご参考に

■アフターサービスについて

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定、「故障かな?と思ったら(※P81)」などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

■保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

■保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

◇弊社製品のお問い合わせ先について

- お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サポートセンター (平日 9:00~12:00、13:00~17:00)

06-6792-4949

電子メール：support_center@icom.co.jp アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、下記の弊社各営業所カスタマーサービス担当にお問い合わせください。

北海道営業所 003-0806 札幌市白石区菊水6条2-2-7 TEL 011-820-3888

東京営業所 103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-42-3 TEL 03-5847-0722

カスタマーサービス TEL 03-5847-0724

広島営業所 733-0842 広島市西区井口3-1-1 TEL 082-501-4321

九州営業所 815-0032 福岡市南区塩原4-5-48 TEL 092-541-0211

仙台営業所 983-0857 仙台市宮城野区東十番丁54-1 TEL 022-298-6211

名古屋営業所 468-0066 名古屋市天白区元八事3-249 TEL 052-832-2525

大阪営業所 547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-6-19 TEL 06-6793-0331

四国営業所 760-0071 高松市藤塚町3-19-43 TEL 087-835-3723

■ 定 格

◇ 一般仕様

- 受信周波数範囲： 0.010～252.899999MHz*1
255.100～261.899999MHz
266.100～270.899999MHz
275.100～379.899999MHz
382.100～411.899999MHz
415.100～809.899999MHz
834.100～859.899999MHz
889.100～914.899999MHz
960.100～3299.999999MHz**

*1右バンドは50～252.899999MHzの受信のみ。

**右バンドは960.100～1300.000000MHzの受信のみ。

(一部周波数を除きます。ただし、動作保証周波数範囲は0.49500～3000.000MHz以内)

- 電 波 型 式：FM、AM、USB/LSB*1、CW、WFM、DV*1*2

*1右バンドではご使用になれません。

*2別売品のUT-118取り付け時のみ、左バンドで動作します。

- 使用温度範囲：(本体)0℃～+60℃
(コントローラー)–10℃～+60℃
- 周波数安定度：±3PPM以下(–10℃～+60℃)
- 周波数分解能：10Hz、20Hz、50Hz、100Hz、500Hz、1kHz、2.5kHz、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz、オート周波数ステップ
- 電 源 電 圧：DC 12.0V±15%
- 接 地 方 式：マイナス接地
- アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡 (BNC型)

●受信消費電流：

- [シングルモード受信時] 最大出力時：1.2A以下
受信待ち受け時：0.65A (typical)
- [デュアルモード受信時] 最大出力時：1.5A以下
受信待ち受け時：0.85A (typical)
- [電源OFF時] PC(USB端子VBAS-ON時)：0.55A (typical)
PC(USB端子VBAS-OFF時)、
コントローラー使用時：0.015A (typical)

- 外形寸法(本体)：146(W)×41(H)×206(D)mm
(コントローラー)：140(W)×50(H)×27.5(D)mm
(突起物を除く)

- 重 量：約1.35kg(本体)
約0.25kg(コントローラー)*
*コントローラーケーブルを含む。

◇ 受信部

- 受信方式：トリプルスーパーヘテロダイナ
+ダウンコンバータ
- 中間周波数*：1st IF; 266.700MHz
2nd IF; 10.700MHz
3rd IF; 450kHz(WFMを除く)

*右バンド/左バンド、共通となっています。

●選 択 度：

SSB/CW/AM	2.8kHz以上/–6dB (typical)
SSB/CW/AM/FM	6.0kHz以上/–6dB (typical)
AM/FM	15kHz以上/–6dB (typical)
AM/FM/WFM	50kHz以上/–6dB (typical)
WFM	230kHz以上/–6dB (typical)

- 低周波出力：0.5W以上(8Ω負荷、10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス：8Ω
- IFシフト可変範囲：±1.2kHz以上

13 定格と別売品について

■ 定格 (つづき)

● 受信感度：

項目名	受信周波数範囲(MHz)	受信感度	SQL感度*1
SSB/CW 10dB S/N BW=2.8kHz	0.495~ 1.799999	14dB μ	37dB μ
	1.8~ 14.999999	-6dB μ	17dB μ
	15~ 49.999999	-6dB μ	17dB μ
	50~ 699.999999	-8dB μ	15dB μ
	700~1300.000000	-6dB μ	17dB μ
AM 10dB S/N BW=6.0kHz	0.495~ 1.799999	28dB μ	25dB μ
	1.8~ 14.999999	8dB μ	-1dB μ
	15~ 49.999999	8dB μ	-1dB μ
	50~ 299.999999	6dB μ	-3dB μ
	300~ 699.999999	6dB μ	-3dB μ
700~1300.000000	8dB μ	-1dB μ	
FM 12dB SINAD BW=15kHz (1kHz 3.5kHz DEV)	28~ 29.999999	-4dB μ	-4dB μ
	30~ 49.999999	-4dB μ	-4dB μ
	50~ 239.999999	-6dB μ	-6dB μ
	240~ 279.999999	-6dB μ	-6dB μ
	280~ 299.999999	-6dB μ	-6dB μ
	300~ 699.999999	-6dB μ	-6dB μ
	700~ 1300.000000	-4dB μ	-4dB μ
	1300*2~ 2299.999999	15dB μ	15dB μ
2300~ 3000.000000	25dB μ	25dB μ	
WFM 12dB SINAD BW=230kHz (1kHz 52.5kHz DEV)	50~ 699.999999	3dB μ	15dB μ
	700~ 1300.000000	5dB μ	17dB μ
	1300*2~ 2299.999999	25dB μ	37dB μ
	2300~ 3000.000000	35dB μ	47dB μ

*1スレッシュホールドで測定したとき

*21300.000001MHzを表します。

※測定値は、JAJA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

- 付属のACアダプター(AD-113)は0℃~+45℃が動作保証となりますので、動作保証範囲内でご使用ください。

■ 別売品一覧

- UT-106 DSPユニット
- UT-108 DTMFデコーダーユニット
- OPC-441 スピーカー延長ケーブル(5m)
- CP-12L シガレットライターケーブル
- OPC-254L 電源供給ケーブル
- MB-65 MB-84用マウントベース

SP-10

外部スピーカー



MB-84

コントローラブラケット



UT-118

デジタル音声ユニット



OPC-1156

IC-R2500用コントローラ延長セパレートケーブル(3.5m)



※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

A	
AFC(自動周波数制御)機能	13
AGC(自動利得制御)	14
ANF(Automatic Notch Filter)機能	62、68
C	
CTCSSトーン周波数	33
D	
DTCSコード	34
DTCS機能	34
DTCS極性反転機能	35
DV(デジタル音声)モード	69
I	
IFシフト機能	39
IFフィルター	12
M	
MSK機能	41
N	
NR(Noise Reduction)機能	62、68
S	
SETモード	53
V	
VFOスキャン	29
VSC(ボイススケルチコントロール)機能	39
あ	
アッテネーター	12
オートイングリメント	21
オートパワーオフ機能	42、56
オートマチックモード機能	10
オールリセット	44
オフセット周波数	37
音量	9
か	
クローニング	42
クローニングソフトウェア	42、45
コントラスト	57
さ	
スキップ機能	27
スキャン	27
スキャンスキップエリア	61

スキャンストップタイマー	59
スケルチディレイ	41
スケルチレベル	9
スタンバイビープ	64
送信側のGPS位置情報	66、74
自局のコールサイン	70
受信GPSメッセージの履歴	66、75
受信位置情報メッセージ	66
受信コールサイン自動表示	64、71
受信コールサイン履歴	65、72
受信メッセージ	66、73、74
受信メッセージ自動表示	65、71
受信モード(電波型式)	10
受信レピータ	65、72、73
た	
トーン/コードスキャン	36
トーンスケルチ機能	33
ディマー	56
データのコンパート	50
デジタルコード	63
デジタルコード/デジタルコードスケルチ	77
デジタルコールサインスケルチ	76
デジタルモニター	64
デュプレクス	37
な	
ノイズブランカー	13
は	
パージリセット	44
バックカラー	57
ビープ音	41
プライオリティスキャン	31
プログラムスキャン	29
ポケットビープ機能	33
ま	
メモリーバンク	22、23
メモリーバンクスキャン	30
メモリーモード	17
モニター	9

高品質がテーマです。